
平成 19 年度 平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT of the Hiratsuka Museum of Art 2007

April 2007-March 2008

平成 19 年度 平塚市美術館年報 目次

I 作品・資料	2
(1) 収集	
(2) 展示	
(3) 貸与	
(4) 保存修復	
(5) その他	
II 展覧会	4
(1) 企画展	
1 美術館に動物たちが大集合！三沢厚彦 アニマルズプラス	4
2 近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展	8
3 絵で読む宮沢賢治展—賢治と絵本原画の世界	12
(2) 特集展	
1 新収蔵品展	17
2 所蔵品選 画家たちの夏休み 湘南ひらつか七夕まつり協賛	18
3 斉藤典彦展—きもちよくながれる—	20
4 自然を描く—所蔵名品選—	22
5 平野杏子展	23
6 所蔵品による冬展—絵画と写真でつづる冬の情景—	25
7 ヴンダーリッヒの彫刻	26
8 大正の鬼才 河野通勢 新発見作品を中心に	27
9 新収蔵品展	33
III 教育普及	34
(1) 教育プログラム	
(2) 団体むけ研修・体験プログラム	
IV その他の事業	37
(1) 事業	
(2) 定例会議	
(3) 「平塚市美術館友の会」活動	
(4) 展覧会入場料割引制度	
V 施設利用者等の統計	39
(1) 展覧会	
(2) 貸出施設	
VI 施設の管理	40
(1) 防災訓練・消防設備点検	
(2) 施設の貸出しについて	
VII 組織・運営	42
VIII 沿革	43

I 作品・資料

(1) 収集

12月19日(水)、美術品選定評価委員会で審議を行い、寄贈作品8点(下表の通り)、寄託作品21点を受け入れた。

種別	作品	制作年	材質	点数
寄贈	猪熊佳子 《神話の国から》	2005年	彩色・紙	1
寄贈	牛島憲之 《水郷(仮)》	1943-50年代前後	油彩・キャンバス	1
寄贈	内田あぐり 《白い着物の裸婦》	1982年	彩色・紙	1
寄贈	北澤明子 《鷺汀より》	1993年	彩色・紙	1
寄贈	小山敬三 《晩秋飛瀑》下図	1977年	彩色・紙	1
寄贈	佐々木豊 《埋葬》	2005年	油彩・キャンバス	1
寄贈	佐々木豊 《裸婦と骨》	1985年	油彩・キャンバス	1
寄贈	斉藤典彦 《Water Land-7》	1994年	彩色・紙	1
計				8

(2) 展示

当館展覧会において、下表の通り作品を展示した。

展覧会名	作品点数(計)	うち所蔵・寄託作品	うち外部作品
企画展 三沢厚彦 アニマルズプラス	250	0	250
企画展 近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展	177	3	174
企画展 絵で読む宮沢賢治展－賢治と絵本原画の世界	270	0	270
特集展 新収蔵品展(2007年)	17	17	0
特集展 斉藤典彦展－きもちよくながれる－	37	1	36
特集展 平野杏子展	45	4	41
特集展 大正期の鬼才・河野通勢展	350	90	260
特集展 所蔵品選 画家たちの夏休み展	52	37	15
特集展 所蔵名品選 自然を描く	47	47	0
特集展 所蔵品による冬展	44	44	0
特集展 新収蔵品展(2008年)	29	29	0
特集展 ヴンダーリッヒの彫刻	10	10	0
計	1,328	282	1,046

(3) 貸与

開催される展覧会、事業の内容や意義、開催場所の設備・環境、作品の状態や当館での利用予定などを考慮し、下表の通り、10団体に計24点を貸出した。

●作品貸与

貸出先	展覧会名、会期	点数	作家・作品名
馬の博物館	三国志をいろどる馬たち 4/14(土)～6/3(日)	1	前田青邨 《秋風五丈原》
兵庫県立美術館、松本市美術館、富山県水墨美術館	絶筆展 5/29(火)～7/8(日)、7/13(金)～ 8/19(日)、8/24(金)～9/30(日)	1	鳥海青児 《フラメンコ》
長野県信濃美術館	描かれた武士たち－武者絵の世界－ 7/28(土)～8/26(日)	1	安田靉彦 《宇治合戦図》
日本橋高島屋、京都高島屋、田辺市立美術館、茨城県天心記念五浦美術館、浜松市秋野不矩美術館	創画会 60年展 9/5(水)～9/17(月)、9/26(水)～ 10/8(月)、10/20(土)～12/24(月)、 2008年1/2(水)～2/11(月)、 2/16(土)～3/30(日)	1	津田一江 《あのこ(わが心のキアラ)》
茅ヶ崎市美術館	気韻生動の画家・小山敬三展 9/15(月)～11/18(火)	1	小山敬三 《晩秋飛瀑》

貸出先	展覧会名、会期	点数	作家・作品名
目黒区美術館	馬と近代美術展 10/11(土)～11/25(火)	4	鳥海青児《ピカドール》《ピカドール(4)》井上三綱《馬を御す》 常盤大空《黒颯(カラフラン)》
飯田市美術博物館	絵画のなかの物語展 10/20(土)～11/11(日)	4	安田靱彦《孔子観河》《日食》《宇治合戦図》 前田青邨《秋風五丈原》
沖縄県立博物館・美術館	沖縄文化の軌跡 1872-2007 11/2(金)～2008 年 2/24(日)	3	鳥海青児《壁の修理 1》《壁の修理 2》 《沖縄風景》
高知県立美術館、 そごう美術館	奥谷博展 10/27(土)～12/2(日)、 2008 年 1/31(木)～2/25(月)	1	奥谷博《地》
計		17	

●資料貸与

貸出先	事業名・開催日	点数	資料名
三井記念美術館	ワークショップ 「春の色をつくってみよう～日本画の えのぐづくりに挑戦！」 2008 年 3/20(木)	7	(日本画用絵具)緑青、群青、胡粉 (原石)孔雀石、藍銅鉱、青金石、牡蠣 貝殻
計		7	

(4) 修復・保存

屋外設置の彫刻 7 点について酸性雨水による腐食防止処置を、絵画作品 1 点について保存修復処置をほどこした。

作家・作品名	種別	材質	点数	処置
ホセ・デ・リヴェラ 《コンストラクション#115》	彫刻	ステンレススチール	1	本体クリーニングと回転部メカニ ズムの保守点検
保田春彦《赤錆の幕舎》	彫刻	鉄	1	グランドライン設置面の腐蝕防止 メンテナンス
保田春彦《地を這うかたち》	彫刻	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
佐藤忠良《緑》	彫刻	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
舟越保武《海の顕彰碑ー渚ー》	彫刻	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
柳原義達《座る女》	彫刻	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
淀井敏夫《海》	彫刻	ブロンズ	1	洗浄後、ワックス塗布
牛島憲之《水郷(仮)》	絵画	油彩・キャンバス	1	—
計			8	

●収蔵庫虫害調査

(財)文化財虫害研究所による。調査は虫害を主として、目視調査とトラップによる調査を併せて実施。

カビ調査は目視のみで行った。

日時他：2007 年 4 月 20 日(金)～5 月 10 日(木)／担当：勝山滋(当館学芸員)

場 所：館内 3 ヲ所(収蔵庫Ⅰ、収蔵庫Ⅱ、特別収蔵庫)

(5) その他

下記のと通りの作業を行った。

- 作品の写真撮影 54 点
- デジタル画像作成 304 点
- 額装・マット装 10 点

Ⅱ 展覧会

(1) 企画展

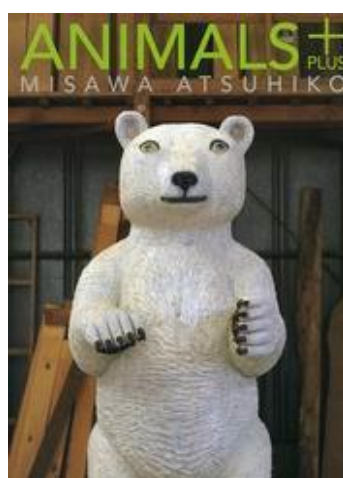
1 美術館に動物たちが大集合！ 三沢厚彦 アニマルズプラス

会期：2007年4月14日(土)～5月27日(日)

種別	企画展
主催	平塚市美術館、読売新聞東京本社、美術館連絡協議会
観覧料	一般 700 円、高大生 500 円 ※各減免をのぞく
日数	39日間
入場者数	21,219人
担当	土方明司（当館館長代理）



リーフレット



作品集



会場

●内容

三沢厚彦(みさわあつひこ・1961-) は現代彫刻の世界で今、最も注目を集める作家のひとりです。特に近年は動物をモチーフにした木彫作品を精力的に発表し、弱冠 40 歳で第 20 回平塚田中賞を受賞するなどその実力が高く評価されています。また、美術愛好家はもとより幅広い層に熱心な支持を広げているのも三沢作品の特徴です。楠の丸太から削り出された実物大の動物たち(「ANIMALS」)は、あるときはふてぶてしく、またあるときは愛嬌たっぷりの表情をみせ、生き生きとした存在感を主張し見るものに直接迫ります。

三沢作品の特徴となる、ノミの跡がはっきりと残る鈍(なた)彫りと彩色による木彫作品は、現代では稀少なものとなっていますが、そもそも日本では古くから伝わる伝統的な手法です。三沢は自身が持つ極めて鋭敏で現代的な感性を基礎にしながら、日本に古くから伝わる彫刻の伝統を踏まえることで新たな彫刻表現の可能性を押し広げました。これにより彫刻本来がもつ圧倒的な存在感と重量感が、新鮮な感覚をもって蘇生されたのです。

こうした魅力は「ANIMALS」を見ていただければただちに理解されるでしょう。一度見たら忘れられない、その独特の作品世界、決して見るものに媚びない充実し内発する存在感は、われわれが久しく忘れていた彫刻を見る、感じる喜びを蘇らせてくれます。

この展覧会では、「ANIMALS」の作品群をはじめとした彫刻作品約 120 点、絵本と画集で好評を博したドローイング約 30 点、初期の珍しい作品、アトリエ再現コーナーなどにより、彫刻家・三沢厚彦の楽しく、ゆたかな作品世界を紹介しました。

●出品リスト

No	作品名	動物名	制作年	素材	所蔵先
1	animal 1999-01	イヌ(ダックスフンド)	1999 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
2	animal 1999-03	トラ	1999 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
3	Dog 2000-01	イヌ	2000 年	楠・アクリル	
4	Dog 2000-02	イヌ(ダルメシアン)	2000 年	楠・油彩	
5	Dog 2000-03	イヌ(フォックスハウンド)	2000 年	楠・油彩	
6	Dog 2000-05	イヌ	2000 年	楠・アクリル・油彩	
7	Dog 2000-06	イヌ(ダックスフンド)	2000 年	楠・油彩	
8	Cat 2000-01	ネコ	2000 年	楠・アクリル	
9	Head 2000-01	ウサギ	2000 年	桂・アクリル・油彩	
10	Head 2000-02	イヌ(アフガンハウンド)	2000 年	ヒバ・アクリル・油彩	
11	Head 2000-03	ネコ	2000 年	桂・アクリル・油彩	
12	Head 2000-04	ピューマ	2000 年	米松・アクリル	
13	Head 2000-06	キツネ	2000 年	ヒバ・アクリル	
14	Head 2000-08	カモシカ	2000 年	ヒバ・アクリル	
15	Head 2000-09	カモシカ	2000 年	ヒバ・アクリル	
16	Head 2000-10	ウマ	2000 年	桂・アクリル	
17	Head 2000-12	ウサギ	2000 年	ヒバ・アクリル	
18	Head 2000-13	イヌ (ブルテリア)	2000 年	楠・アクリル	
19	Head 2000-14	シマウマ	2000 年	米松・アクリル	
20	Head 2000-15	シカ	2000 年	ヒバ・アクリル	
21	Head 2000-17	ネコ	2000 年	ヒバ・アクリル	
22	Head 2000-20	ワラビー	2000 年	楠・油彩	
23	Animal 2000-01	トラ	2000 年	楠・油彩	井原市立田中美術館
24	Animal 2000-02	シマウマ	2000 年	楠・油彩	北海道立旭川美術館
25	animal 2000-01	イヌ	2000 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
26	animal 2000-02	シマウマ	2000 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
27	Dog 2001-01	イヌ (ポインター)	2001 年	楠・油彩	
28	Dog 2001-02	イヌ	2001 年	楠・油彩	
29	Dog 2001-03	イヌ (柴犬)	2001 年	楠・油彩	
30	Dog 2001-08	イヌ	2001 年	楠・油彩	
31	Dog 2001-09	イヌ (ブルテリア)	2001 年	楠・油彩	
32	Cat 2001-02	ネコ	2001 年	楠・油彩	
33	Cat 2001-03	ネコ	2001 年	楠・油彩	
34	Cat 2001-04	ネコ	2001 年	楠・油彩	
35	Head 2001-06	チーター	2001 年	楠・アクリル	
36	Head 2001-11	ウシ	2001 年	ヒバ・アクリル	
37	Head 2001-12	ウサギ	2001 年	楠・アクリル	
38	Animal 2001-01	チーター	2001 年	楠・油彩	北海道立旭川美術館
39	Animal 2001-02	ガゼル	2001 年	楠・油彩	
40	Animal 2001-03	トラ	2001 年	楠・油彩	
41	animal 2001-01	キリン	2001 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
42	animal 2001-02	ゾウ	2001 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
43	animal 2001-03	ブタ	2001 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
44	Dog 2002-02	イヌ (シベリアンハスキー)	2002 年	楠・油彩	
45	Dog 2002-05	イヌ (ポインター)	2002 年	楠・油彩	
46	Cat 2002-01	ネコ	2002 年	楠・油彩	
47	Cat 2002-02	ネコ	2002 年	楠・油彩	
48	Cat 2002-04	ネコ	2002 年	楠・油彩	
49	Animal 2002-03	ウサギ	2002 年	楠・油彩	
50	Animal 2002-04	ウサギ	2002 年	楠・油彩	
51	Animal 2002-06	カンガルー	2002 年	楠・油彩	
52	Animal 2002-07	マンドリル	2002 年	楠・油彩	
53	Animal 2002-08	ブタ	2002 年	楠・油彩	
54	Animal 2002-09	ブタ	2002 年	楠・油彩	
55	Animal 2002-10	ウサギ	2002 年	楠・油彩	
56	Dog 2003-03	イヌ (ダルメシアン)	2003 年	楠・油彩	
57	Dog 2003-04	イヌ (ファラオハウンド)	2003 年	楠・油彩	
58	Dog 2003-05	イヌ	2003 年	楠・油彩	
59	Cat 2003-02	ネコ	2003 年	楠・油彩	
60	Cat 2003-03	ネコ	2003 年	楠・油彩	
61	Animal 2003-03	ヤモリ	2003 年	楠・油彩・アクリル・色鉛筆	
62	Animal 2003-04	ヤモリ	2003 年	楠・油彩・アクリル・色鉛筆	
63	Animal 2003-06	チーター	2003 年	楠・油彩	
64	animal 2003-02	ウマ	2003 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
65	animal 2003-06	キリン	2003 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	

66	animal 2003-09	ワニ	2003 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
67	animal 2003-10	トラ	2003 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
68	Cat 2004-01	ネコ	2004 年	楠・油彩	
69	Cat 2004-03	ネコ	2004 年	楠・油彩	
70	Animal 2004-01	ウサギ	2004 年	楠・油彩	
71	Animal 2004-02	シカ	2004 年	楠・米松・油彩	
72	Animal 2004-04	シカ	2004 年	楠・油彩	
73	Dog 2005-02	イヌ (フレンチブルドッグ)	2005 年	楠・油彩	
74	Dog 2005-03	イヌ (ブルドッグ)	2005 年	楠・油彩	
75	Animal 2005-01	ユキヒョウ	2005 年	楠・油彩	
76	Animal 2005-02	キツネザル	2005 年	楠・油彩	
77	Animal 2005-03	ウサギ	2005 年	楠・油彩	
78	Animal 2005-04	ブタ	2005 年	楠・油彩	
79	Animal 2005-05	ゾウ (マルミミゾウ)	2005 年	楠・油彩	
80	Animal 2005-06	ブタ	2005 年	楠・油彩	
81	Animal 2005-07	カエル	2005 年	楠・油彩・アクリル・色鉛筆	
82	Animal 2005-08	リスザル	2005 年	楠・油彩	
83	Animal 2005-13	ウサギ	2005 年	楠・油彩	
84	animal 2005-01	ゾウ	2005 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
85	animal 2005-02	ユキヒョウ	2005 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
86	animal 2005-04	キリン	2005 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
87	animal 2005-05	キツネザル	2005 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
88	Dog 2006-01	イヌ (柴犬)	2006 年	楠・油彩	
89	Dog 2006-02	イヌ (ダックスフンド)	2006 年	楠・油彩	
90	Dog 2006-03	イヌ (ブルテリア)	2006 年	楠・油彩	
91	Cat 2006-01	ネコ	2006 年	楠・油彩	
92	Cat 2006-02	ネコ	2006 年	楠・油彩	
93	Cat 2006-03	ネコ	2006 年	楠・油彩	
94	Cat 2006-04	ネコ	2006 年	楠・油彩	
95	Animal 2006-01	キリン	2006 年	楠・油彩	
96	Animal 2006-02	モモンガ	2006 年	楠・油彩	
97	Animal 2006-03	リス	2006 年	楠・油彩	
98	Animal 2006-04	リス	2006 年	楠・油彩	
99	Animal 2006-05	リスザル	2006 年	楠・油彩	
100	Animal 2006-06	モモンガ	2006 年	楠・油彩	
101	Animal 2006-08	コウモリ	2006 年	楠・油彩	
102	Animal 2006-10	ヤモリ	2006 年	楠・油彩・アクリル・色鉛筆	
103	Animal 2006-11	カエル	2006 年	楠・油彩・アクリル・色鉛筆	
104	Animal 2006-12	ヤモリ	2006 年	楠・油彩・アクリル・色鉛筆	
105	Animal 2006-13	ヤモリ	2006 年	楠・油彩・アクリル・色鉛筆	
106	Animal 2006-14	ヤモリ	2006 年	楠・油彩・アクリル・色鉛筆	
107	animal 2006-05	クマ	2006 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
108	animal 2006-06	クマ	2006 年	粘土・木・ボンド・紙・アクリル	
109	Animal 2007-01 Animal 2007-02	ユニコーン	2006 年	楠・油彩	
110	Animal 2007-03	クマ	2006 年	楠・油彩	
111	コロイドトンブ (ウマグマ)		1995 年	木を主としたミクストメディア	
112	コロイドトンブ (ヒトウマ)		1998 年	ミクストメディア	
113	コロイドトンブ (Light foot)		1998 年	ミクストメディア	
114	コロイドトンブ (彫刻ノウト)		1999 年	桂・楠	
115	Drawing 2000		2000 年	油彩・紙	北海道立旭川美術館
116	Drawing 2000		2000 年	油彩・紙	北海道立旭川美術館
117	Drawing 2001-24		2001 年	グワッシュ、鉛筆・紙	北海道立旭川美術館

●関連事業

事業内容	日時、場所、講師等	参加者数
作家との対談	4月28日(土) 村田朋泰氏(映像作家) VS 三沢厚彦氏 5月 5日(土) 寺田 農氏(俳 優) VS 三沢厚彦氏 5月13日(日) 舟越 桂氏(彫刻家) VS 三沢厚彦氏 5月19日(土) 森山大道氏(写真家) VS 三沢厚彦氏 ※各日14:00-15:00 美術館ミュージアムホール	計730人
団体むけレクチャー	5月 4日(金) 市民の美術館を考える会 5月 9日(水) 富士見保育園 5月17日(木) 平塚市立崇善公民館・富士見公民館・松原公民館・なでしこ公民館 5月22日(火) 平塚市立大原小学校・(社)日本セカンドライフ協会 5月24日(木) 平塚市立岡崎公民館・神田公民館	計187人

●作品集

ANIMALS+ MISAWA ATSUSHIKO 三沢厚彦 アニマルズ プラス

発行年月	2007年4月
価格	2,600 円
体裁	25.8cm×19.2cm 180頁
著者	三沢厚彦
テキスト	土方明司「三沢厚彦「ANIMALS」」 対談 酒井忠康×三沢厚彦 対談 中川李枝子×三沢厚彦 対談 森山大道×三沢厚彦
図版	作品183点 他
資料等	主要参考文献目録 作品リスト 年譜
装丁・デザイン	馬面俊之
発行	株式会社 求龍堂
印刷	公和印刷株式会社

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
3月11日(日)	『僕の感じ』出せたら 動物たちの存在感 神奈川新聞
3月29日(木)	「三沢厚彦 アニマルズ+」 fuji-tv ART NET
3月31日(土)	三谷美砂子「丸太から掘り出す実物大の動物たち 4月14日から平塚市美術館で展覧会」 リビング平塚・大磯・二宮
4月	山口裕美「知の現在形と出会う ARTのたしなみ」 Gainer
4月	内田繁「MONTHLY ART NAVI」 婦人画報
4月18日(水)	丸山孝「クスノキ彫り、油絵の具で彩色 美術館に動物集合 平塚で三沢さん個展」神奈川新聞
4月22日(日)	「三沢厚彦展 アニマルズ+」 NHK新日曜美術館・アートシーン展覧会情報
5月 1日(火)	「三沢厚彦展 アニマルズ+」 新美術新聞
5月 4日(金)	尹貴淑 「圧倒 際立つ存在感 三沢厚彦さんの個展『アニマルズ+』」 神奈川新聞
5月 4日(金)	黒沢綾子「鉦彫りで刻まれたリアル」 SANKEI EXPRESS
5月 9日(水)	黒沢綾子「三沢厚彦 等身大の動物彫刻」産経新聞
5月 9日(水)	宝玉正彦「動物彫刻に快い緊張感『三沢厚彦 アニマルズ+』展」 日本経済新聞
5月16日(水)	土方明司「『三沢厚彦 アニマルズ+』展 上 伝統技法と新感覚融合」読売新聞
5月17日(木)	土方明司「『三沢厚彦 アニマルズ+』展 中 イメージ凝縮力強い存在感」読売新聞
5月18日(金)	土方明司「『三沢厚彦 アニマルズ+』展 下 木塊に動かされ本質彫り出す」読売新聞
6月10日(日)	宮村周子「休日のための美術館ホッピング」 Coyote No19
6月	中島智企画展「レビュー シミュラクル化する動物たち」 美術手帖

2 近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展

会期：2007年7月21日(土)～9月2日(日)

種別	企画展
主催	平塚市美術館、東京国立博物館、東京文化財研究所
協賛	神奈川中央交通株式会社
観覧料	一般 700 円、高大生 500 円 ※各減免をのぞく
日数	38 日間 ※会期中、開館時間を 18:00 まで延長した。 ※7/21, 7/28, 8/4, 8/11, 8/18, 8/25, 9/1 の各土曜日、幼児(2～6 歳児)を対象にキッズルームを開設。
入場者数	12,748 人
担当	森岩恒明(当館学芸員)



リーフレット



会場



講演会

●内容

近代日本の洋画を創始したともいえる黒田清輝(くろだせいき・1866-1924)の画業を回顧する展覧会を開催いたしました。黒田の遺志によって、その前身がつくられた東京文化財研究所のご協力のもと、《湖畔》などの代表的な作品から、デッサン、書簡や日記までを紹介しました。

黒田清輝は、幕末の鹿児島で薩摩藩士の家に生まれ、幼くして父の兄清綱の養子となり、東京で育ちました。のちに法律を学ぶためフランスへ留学します。しかし、パリで絵画に興味をいだき、法律家から画家に転身。外光派の画家ラファエル・コランに師事し、アカデミックな美術教育を受けました。

1893(明治26)年、約10年間の留学生活を終えて日本に戻ると、日本の洋画界は大きな変革を迎えることとなります。黒田はフランスで学んだ外光派の明るい画面をもたらしました。それまで主流であったバルビゾン派風の絵画にかわって、新しい画風が人々に受け入れられていったのです。

一方、1896(明治29)年には、美術団体「白馬会」を結成し、東京美術学校の指導者となり、明治・大正時代の洋画界における中心的な人物となっていきました。加えて、1907(明治40)年の文展開設に携わり、1910(明治43)年には洋画家としてはじめて帝室技芸員に任命されるなど、晩年にかけて美術行政を主導する役割を果たすようになります。

本展では、黒田清輝のフランス留学時代の作品から、《湖畔》、《智・感・情》などの代表的な作品、晩年の作品まで、資料とともに紹介しました。また、《波打ち際の岩》など当館所蔵の作品も展示しました。画家として新しい絵画を日本にもたらし、とりわけ晩年には美術行政に深く関わり、その制度の確立に尽力した黒田清輝の優れた画業を紹介しました。

●出品リスト

No.	作品名	制作年	材質・技法
1	自画像	1885 年	紙・鉛筆
2	女の顔(模写)	1886 年	紙・木炭
3	石膏像	1887 年	紙・木炭
4	裸婦習作	1887 年	紙・木炭

5	裸体習作	1887 年	紙・木炭
6	田舎家	1888 年	キャンバス・油彩
7	裸婦習作	1888 年	紙・木炭
8	裸体習作	1888 年	紙・木炭
9	裸体習作	1888 年	紙・木炭
10	少年	1888 年	紙・木炭
11	裸婦習作	1888 年	紙・木炭
12	裸婦習作	1889 年	紙・木炭
13	女の顔	1889 年	紙・木炭
14	裸体習作	1889 年	紙・木炭
15	椅子による女	1889 年	紙・木炭
16	裸体・女（後半身）	1889 年	キャンバス・油彩
17	裸体・女（全身）	1889 年	キャンバス・油彩
18	裸体・女（全身）	1889 年	キャンバス・油彩
19	裸体・男（半身）	1889 年	キャンバス・油彩
20	自画像（トルコ帽）	1889 年	キャンバス・油彩
21	祈祷	1889 年	キャンバス・油彩
22	画室の一隅	1889 年	キャンバス・油彩
23	久米氏肖像	1889 年頃	キャンバス・油彩
24	原	1889 年	キャンバス・油彩
25	楊樹	1889 年	キャンバス・油彩
26	羊を抱く少女	1889 年	キャンバス・油彩
27	友人グリフィン肖像	1889 年	キャンバス・油彩
28	パリー風景	1890 年	キャンバス・油彩
29	野原の立木	1890 年	キャンバス・油彩
30	少女の顔	1890 年	キャンバス・油彩
31	編物	1890 年	キャンバス・油彩
32	庭	1890 年	キャンバス・油彩
33	繡物する女	1890 年頃	紙・木炭
34	編物する女	1890 年頃	紙・木炭
35	机による女	1890 年頃	紙・木炭
36	雪景	1890 年頃	紙・木炭
37	豚屋	1891 年	キャンバス・油彩
38	台所	1891 年	板・油彩
39	七面鳥	1890 年	キャンバス・油彩
40	ブレハ島にて	1891-2 年	板・油彩
41	少女	1891 年	キャンバス・油彩
42	枯れ野原（グレー）	1891 年	キャンバス・油彩
43	残雪	1892 年頃	キャンバス・油彩
44	赤髪の少女	1892 年	キャンバス・油彩
45	夏図画稿（傘持つ女）（一）	1892 年	紙・木炭
46	夏図画稿（傘持つ女）（二）	1892 年	紙・木炭
47	夏図画稿（女の顔）	1892 年	紙・木炭
48	夏図画稿（手）	1892 年	紙・木炭
49	夏図画稿（女の顔）	1892 年	紙・木炭
50	夏図画稿（手）	1892 年	紙・木炭
51	夏図画稿（女の顔）	1892 年	紙・木炭
52	夏図画稿（手）	1892 年	紙・木炭
53	夏図画稿（坐る女）（一）	1892 年	紙・木炭
54	夏図画稿（坐る女）（二）	1892 年	紙・木炭
55	夏図画稿（横たわる女）	1892 年	紙・木炭
56	夏図画稿（坐る女）	1892 年	紙・木炭
57	ブレハの海岸	1892 年	キャンバス・油彩
58	風景（グレー）	1892 年頃	キャンバス・油彩
59	横浜本牧の景	1894 年	板・油彩
60	昼寝	1894 年	キャンバス・油彩
61	金州城内新聞記者宿舍内部の図	1894 年	紙・インク
62	《昔語り》の僧侶	1895 年	キャンバス・油彩
63	昔語り下絵（構図Ⅰ）	1895 年	キャンバス・油彩
64	昔語り下絵（清閑寺景）	1895 年	板・油彩
65	昔語り図画稿（構図）	1896 年	紙・木炭
66	昔語り下絵（構図Ⅱ）	1896 年	キャンバス・油彩
67	昔語り図画稿（草刈り娘全身像）	1896 年	紙・木炭
68	昔語り図画稿（草刈り娘の顔）	1896 年	紙・木炭
69	昔語り図画稿（草刈り娘の足）	1896 年	紙・木炭
70	昔語り下絵（草刈り娘）	1896 年	キャンバス・油彩
71	昔語り図画稿（僧半身像）	1896 年	紙・木炭
72	昔語り図画稿（僧の手）	1896 年	紙・木炭

73	昔語り図画稿（僧の足）	1896 年	紙・木炭
74	昔語り下絵（僧）	1896 年	キャンバス・油彩
75	昔語り図画稿（舞妓全身像）	1896 年	紙・木炭
76	昔語り図画稿（舞妓半身像）	1896 年	紙・木炭
77	昔語り下絵（舞妓）	1896 年	キャンバス・油彩
78	昔語り図画稿（仲居全身像）	1896 年	紙・木炭
79	昔語り図画稿（仲居半身像）	1896 年	紙・木炭
80	昔語り下絵（仲居）	1896 年	キャンバス・油彩
81	昔語り図画稿（男着衣半身像）	1896 年	紙・木炭
82	昔語り図画稿（男裸体半身像）	1896 年	紙・木炭
83	昔語り図画稿（男の脚）	1896 年	紙・木炭
84	昔語り下絵（男）	1896 年	キャンバス・油彩
85	女の顔	1896 年	紙・木炭
86	昔語り図画稿（舞妓半身像）	1896 年	紙・木炭
87	昔語り下絵（舞妓）	1896 年	キャンバス・油彩
88	昔語り図画稿（手）	1896 年	紙・木炭
89	昔語り図画稿（手）	1896 年	紙・木炭
90	昔語り下絵（男と舞妓）	1896 年	キャンバス・油彩
91	昔語り下絵（清閑寺景）	1896 年	キャンバス・油彩
92	昔語り下絵（清閑寺門）	1896 年	キャンバス・油彩
※	波打ち際の岩	1896 年	板・油彩
93	犬	1897 年	板・油彩
94	大磯	1897 年	板・油彩
95	湖畔	1897 年	キャンバス・油彩
96	漁舟着岸	1897 年	板・油彩
97	母子	1897 年	キャンバス・油彩
※	由比ヶ浜	1897 年	板・油彩
98	婦人肖像	1898 年	紙・木炭
99	書見	1898 年	キャンバス・油彩
100	少女・雪子十一歳	1899 年	板・油彩
101	智・感・情のうち智	1899 年	キャンバス・油彩
	智・感・情のうち感	1899 年	キャンバス・油彩
	智・感・情のうち情	1899 年	キャンバス・油彩
102	香港	1900 年	板・油彩
103	湖畔婦人	1901 年	紙・鉛筆
104	湖畔の雨	1901 年	紙・鉛筆
105	湖畔の風	1901 年	紙・鉛筆
106	湖畔（元箱根）	1901 年	紙・鉛筆
107	元箱根村にて	1901 年	紙・鉛筆
108	風景（平河町庭）	1904 年	キャンバス・油彩
109	野辺（画稿）	1907 年	紙・木炭
110	花野図画稿（Ⅰ）	1907 年頃	紙・木炭
111	花野図画稿（Ⅱ）	1907 年	紙・コンテ
112	花野下絵	1907 年	キャンバス・油彩
113	寺尾壽博士像	1909 年	キャンバス・油彩
※	赤星弥之助像	1909 年	キャンバス・油彩
114	桂公肖像（画稿）	1910 年	キャンバス・油彩
115	森の中	1910 年	パステル・紙
116	婦人肖像	1911-12 年	キャンバス・油彩
117	もるる日影	1914 年	キャンバス・油彩
118	雲（6 枚組）	1914/1921 年	板・油彩
119	田園の夏	1914 年	板・油彩
120	農婦	1914 年	キャンバス・油彩
121	其日のはて（下絵）二枚	1914 年	紙・鉛筆
122	其日のはて（下絵）二枚	1914 年	紙・鉛筆
123	其日のはて（下絵）二枚	1914 年	紙・鉛筆
124	其の日のはて（下絵一）	1914 年	板・油彩
125	其の日のはて（下絵二）	1914 年	板・油彩
126	秋景色	1914 年	キャンバス・油彩
127	自画像	1915 年	キャンバス・油彩
128	松方公肖像下絵	1915 年頃	キャンバス・油彩
129	花野	1907-15 年	キャンバス・油彩
130	鎌倉にて（小壺にて）	1915 年	板・油彩
	鎌倉にて（菜種）	1916 年	板・油彩
	鎌倉にて（初更の田舎）	1918 年	板・油彩
131	ラファエル・コラン像	1916 年	鉛筆・紙
132	栗拾い	1917 年	キャンバス・油彩
133	温室花壇	1918 年	キャンバス・油彩

134	夕の梨畑	1919 年	板・油彩
	夕の原	1919 年	板・油彩
	夕の景	1919 年	板・油彩
135	嵐	1919 年	板・油彩
136	木村翁肖像	1919 年	キャンパス・油彩
137	案山子	1920 年	板・油彩
138	森の夕日	1920 年頃	キャンパス・油彩
139	山つつじ	1921 年	板・油彩
140	つつじ	1921 年	板・油彩
141	雪	1922 年	板・油彩
142	稲荷神社	1922 年	キャンパス・油彩
143	雪（松アリ）	1923 年	板・油彩
144	薔薇	1923 年	板・油彩
145	挹芳園	1923 年	板・油彩
146	梅林	1924 年	板・油彩
147	林	1924 年	キャンパス・油彩
◎写生帖			
1	写生帖 2 号 (Fontainebleau)	1887 年	紙
2	写生帖 3 号 (ベルギー旅行、Blankenberge)	1887 年	紙
3	写生帖 4 号 (Grez、解剖学講義)	1888 年	紙
4	写生帖 5 号 (Barbizon、Boigneville)	1888-89 年	紙
5	写生帖 6 号 (Blankenberge)	1889 年	紙
6	写生帖 7 号 (Grez)	1890 年	紙
7	写生帖 8 号 (アルザス旅行、Gerardmer、Epinal)	1891 年	紙
8	写生帖 9 号 (Brehat)	1891 年	紙
9	写生帖 25 号 (Grez、夏図構図)	1892 年	紙
10	写生帖 10 号 (京都旅行)	1893 年	紙
11	写生帖 11 号 (京都旅行)	1893 年	紙
12	写生帖 12 号 (京都旅行)	1893 年	紙
13	写生帖 26 号 (北海道旅行)	1894 年	紙
14	写生帖 13 号 (横浜本牧、鎌倉)	1894 年	紙
15	写生帖 14 号 (日清戦争)	1894 年	紙
16	写生帖 15 号 (日清戦争)	1894 年	紙
17	写生帖 16 号 (日清戦争一野戦病院)	1894-95 年	紙
◎書簡			
1	黒田清綱宛	1884 年	—
2	黒田清綱宛	1886 年	—
3	黒田清綱宛	1887 年	—
◎日記			
1	明治 24 年、独仏国境旅行記	1891 年	—
2	明治 28 年、日清戦争従軍記	1895 年	—
3	明治 29 年	1896 年	—
4	明治 32 年、表紙、自画像	1899 年	—
5	大正 6 年	1917 年	—
◎参考出品			
1	高村光太郎作 故子爵黒田清輝胸像	1932 年	ブロンズ
2	遺品 絵具箱	—	—

※印をのぞき東京国立博物館の所蔵。※印の作品は当館蔵。

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
講演会「黒田清輝のいた場所－湘南地域を中心に」	7 月 28 日 (土) 13:30-15:00 美術館ミュージアムホール 講師：田中淳氏 (東京文化財研究所企画情報部長)	84 人
学芸員によるギャラリートーク	8 月 4 日 (土) / 8 月 26 日 (日) 13:30-14:30 美術館展示室 解説：森岩恒明 (当館学芸員)	計 90 人
団体むけレクチャー	8 月 22 日 (水) 小田原市小学校図工部会 他	計 255 人

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
7 月 27 日 (金)	「近代日本西洋画の巨匠 黒田清輝展」 湘南ホームジャーナル第 1278 号
7 月 28 日 (土)	菅彩織「Painting, politics and passion from Seiki Kuroda」 DAILY YOMIURI
8 月 2 日 (木)	「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展」 Fuji-TV ART NET
8 月 3 日 (金)	小林一登「黒田清輝の画業回顧 平塚で作品展「湖畔」など代表作公開」神奈川新聞

3 絵で読む宮沢賢治展—賢治と絵本原画の世界

会期：2007年9月15日(土)～11月4日(日)

種別	企画展
主催	平塚市美術館・東京新聞
協賛	神奈川中央交通株式会社
観覧料	一般 700 円、高大生 500 円 ※各減免をのぞく
日数	45日間
入場者数	24,514人
担当	土方明司（当館館長代理）



リーフレット



図録



会場

●内容

優れた童話作家であり詩人である宮沢賢治(みやざわけんじ・1896-1933)の文学性の高さは、世界的に評価を得ていることはいままでもなく、今日なお賢治作品を題材にした数々の出版物が、後を絶たないことからあきらかです。なかでも賢治童話は、子どもから大人まで幅広い年齢層に愛され、それぞれの年代に応じたイメージ世界へと誘ってくれます。これは賢治の描く物語が、視覚的幻想空間を想起させ、未知の空想世界へと扉を開いているからにほかなりません。これまでも多くの絵本作家やアーティストが、彼の文学に触発され、絵本をはじめとして、視覚表現を試みてきました。その成果は、現在数多くの出版物にみることができます。

この展覧会は2部構成とし、第1部では宮沢賢治の童話や詩の直筆原稿や水彩画、書簡、戦前戦後に出版された代表的な挿絵本ほかを展示し、宮沢賢治の生涯を紹介しました。中でも賢治自筆の「雨ニモマケズ」手帳と、賢治が描いた水彩画5点は12年ぶりに展示いたしました。そして第2部では、銀河鉄道の夜、風の又三郎をはじめとした宮沢賢治の童話や詩のイメージを描いた絵本原画を中心に展示しました。

●出品リスト

No	作家名	作品・資料名		材質	発行年	所蔵先
第1部 「宮沢賢治」という現象～宮沢賢治の生涯～						
1	宮沢賢治	国語綴方帳	複製	墨・紙	1908年	宮沢賢治記念館
2	宮沢賢治	保阪嘉内あて書簡	複製	インク・紙	1916年	
3	宮沢賢治	保阪嘉内あて書簡	複製	インク・紙	1919年	
4	宮沢賢治	保阪嘉内あて書簡	複製	インク・紙	1920年	
5	宮沢賢治	保阪嘉内あて書簡	複製	インク・紙	1921年	
6		『愛国婦人』大正10年12月号		書籍	1921年	いわき市立草野心平記念文学館
7		和賀郡土性図		水彩、インク・紙	1924年	
8		バタグルミの化石		化石		林風舎
9	宮沢賢治	『春と修羅』		書籍	1924年	林風舎
10	宮沢賢治	『注文の多い料理店』		書籍	1924年	林風舎
11	菊池武雄	『注文の多い料理店』挿絵		印刷・紙	1924年	林風舎
12		『注文の多い料理店』広告葉書		印刷・紙	1924年	林風舎

13		『注文の多い料理店』 広告葉書		印刷・紙	1924 年	林風舎
14		『注文の多い料理店』 広告チラシ		印刷・紙	1924 年	林風舎
15		『注文の多い料理店』 広告チラシ		印刷・紙	1924 年	林風舎
16		『注文の多い料理店』 広告(『赤い鳥』大正 14 年 1 月号)	復刻	—	1925 年	
17	草野新平編集	『銅鑼』第 4 号		書籍	1925 年	いわき市立草野心平記念文学館
18	草野新平編集	『銅鑼』第 5 号		書籍	1925 年	いわき市立草野心平記念文学館
19	草野新平編集	『銅鑼』第 6 号		書籍	1926 年	いわき市立草野心平記念文学館
20	草野新平編集	『銅鑼』第 7 号		書籍	1926 年	いわき市立草野心平記念文学館
21	草野新平編集	『銅鑼』第 8 号		書籍	1926 年	いわき市立草野心平記念文学館
22	草野新平編集	『銅鑼』第 9 号		書籍	1926 年	いわき市立草野心平記念文学館
23	草野新平編集	『銅鑼』第 10 号		書籍	1927 年	いわき市立草野心平記念文学館
24	草野新平編集	『銅鑼』第 12 号		書籍	1927 年	いわき市立草野心平記念文学館
25	草野新平編集	『銅鑼』第 13 号		書籍	1928 年	いわき市立草野心平記念文学館
26	森佐一編集	『貌』第 1 号		書籍	1925 年	宮沢賢治記念館
27	森佐一編集	『貌』第 2 号		書籍	1925 年	宮沢賢治記念館
28	森佐一編集	『貌』第 3 号		書籍	1925 年	宮沢賢治記念館
29	森佐一編集	『貌』第 4 号		書籍	1926 年	宮沢賢治記念館
30	森佐一編集	『貌』第 5 号		書籍	1926 年	宮沢賢治記念館
31	宮沢賢治	森佐一あて書簡		インク・紙	1925 年	盛岡市(もりおか啄木・賢治青春館)
32	宮沢賢治	森佐一あて書簡		インク・紙	1925 年	盛岡市(もりおか啄木・賢治青春館)
33	宮沢賢治	保阪嘉内あて書簡	複製	インク・紙	1925 年	
34	宮沢賢治	森佐一あて書簡		インク・紙	1925 年	盛岡市(もりおか啄木・賢治青春館)
35	宮沢賢治	森佐一あて書簡		インク・紙	1925 年	盛岡市(もりおか啄木・賢治青春館)
36	宮沢賢治	羅須地人協会の集会案内		印刷・紙	1926 年	林風舎
37	宮沢賢治	菊池武雄あて書簡		インク・紙	1928 年	林風舎
38	宮沢賢治	森佐一あて書簡		インク・紙	1930 年	盛岡市(もりおか啄木・賢治青春館)
39	宮沢賢治	鈴木東蔵あて書簡		インク・紙	1930 年	
40	宮沢賢治	鈴木東蔵あて書簡		インク・紙	1930 年	
41	宮沢賢治	書「春はまだ来の朱雲を——」		墨・紙	1930 年	
42	宮沢賢治	菊池武雄あて書簡		インク・紙	1931 年	
43	宮沢賢治	鈴木東蔵・鈴木軍之助あて書簡		インク・紙	1931 年	林風舎
44	宮沢賢治	森佐一あて書簡	複製	インク・紙	1932 年	盛岡市(もりおか啄木・賢治青春館)
45	宮沢賢治	両親あて書簡		インク・紙	1931 年	林風舎
46	宮沢賢治	鈴木東蔵あて書簡		インク・紙	1931 年	
47	宮沢賢治	菊池武雄あて書簡		インク・紙	1933 年	林風舎
48	宮沢賢治	鈴木東蔵あて書簡		インク・紙	1933 年	
49	宮沢賢治	森佐一あて書簡	複製	インク・紙	1933 年	盛岡市(もりおか啄木・賢治青春館)
50	宮沢賢治	高橋忠彌あて書簡		インク・紙	1933 年	盛岡てがみ館
51	宮沢賢治	高橋忠彌あて書簡		インク・紙	1933 年	盛岡てがみ館
52	宮沢賢治	菊池武雄あて書簡		インク・紙	1933 年	林風舎
53	宮沢賢治	森佐一あて書簡		インク・紙	1933 年	盛岡市(もりおか啄木・賢治青春館)
54	宮沢賢治	絶筆二首		墨・紙	1933 年	林風舎
55	宮沢賢治	国訳妙法蓮華経		書籍	1934 年	林風舎
56	宮沢賢治	雨ニモマケズ手帳		鉛筆、インク、色鉛筆・紙	1931 年	林風舎
57	宮沢賢治	紙片「塵点の劫」		鉛筆・紙	1931 年	林風舎
58	宮沢賢治	「永訣の朝」原稿	複製	—	1924 年	宮沢賢治記念館
59	宮沢賢治	「春と修羅」原稿	複製	—	1924 年	宮沢賢治記念館
60	宮沢賢治	「無声慟哭」原稿	複製	—	1924 年	宮沢賢治記念館
61	宮沢賢治	「松の針」原稿	複製	—	1924 年	宮沢賢治記念館
62	宮沢賢治	「よだかの星」原稿	複製	—	1921 年	宮沢賢治記念館

63	宮沢賢治	「注文の多い料理店」原稿	複製	—	1924 年	宮沢賢治記念館
64	宮沢賢治	「セロ弾きのゴーシュ」原稿	複製	—	1931-33 年頃	宮沢賢治記念館
65	宮沢賢治	「銀河鉄道の夜」原稿	複製	—	1924-33 年頃	宮沢賢治記念館
66	宮沢賢治	「風の又三郎」原稿	複製	—	1931-33 年頃	宮沢賢治記念館
67	宮沢賢治	「グスコーブドリの伝記」原稿	複製	—	1932 年	宮沢賢治記念館
68	宮沢賢治	日輪と山		水彩、鉛筆・紙	不明	林風舎
69	宮沢賢治	無題（赤玉）		水彩・紙	不明	林風舎
70	宮沢賢治	無題（ケミカルガーデン）		水彩・紙	不明	林風舎
71	宮沢賢治	無題（月夜のでんしんぼしら）		写真に彩色	不明	林風舎
72	宮沢賢治	無題（ミミズクの絵）		墨・紙	不明	林風舎

第2部 すきとほったほんとうのたべもの～賢治童話の挿絵の世界～

◎絵本原画

1	佐藤国男	銀河鉄道の夜	4 点	木版、彩色・紙	1984 年	
2	東逸子	銀河鉄道の夜	4 点	水彩、パステル、ミクストメディア・紙	1993 年	
3	金井一郎	銀河鉄道の夜	3 点	ピン ホール ワーク・紙	1988 年	
4	伊勢英子	風の又三郎	4 点	アクリル、鉛筆、和紙・紙	1993 年	
5	赤羽末吉	セロ弾きのゴーシュ	10 点*	日本画顔料・紙	1989 年	ちひろ美術館
6	春日部たすく	セロ弾きのゴーシュ	1 点	水彩・紙	1963 年	
7	名倉靖博	セロ弾きのゴーシュ	4 点	水彩、色鉛筆、カラーインク・紙	1992 年	
8	茂田井武	セロひきのゴーシュ	5 点 4 点*	水彩・紙	1966 年	
9	朝倉摂	注文の多い料理店	4 点	アクリル・イラストボード	1971 年	
10	安野光雅	注文の多い料理店(物語の街から村へ より)	1 点	水彩・紙	2001 年	津和野町立安野光雅美術館
11	杉浦範茂	注文のおおい料理店	4 点	アクリル・紙	1990 年	
12	武井武雄	注文の多い料理店	3 点	水彩・紙	1971 年	岡谷市教育委員会
13	三浦幸子	注文の多い料理店	4 点	彩色・紙	1984 年	
14	和田誠	注文の多い料理店	4 点	ガッシュ・紙	2004 年	
15	高野玲子	どんぐりと山猫	4 点	エッチング・紙	1989 年	
16	田島征三	どんぐりと山猫	4 点	アクリル、泥絵具・紙	2006 年	
17	畑中純	どんぐりと山猫	4 点	木版・紙	1997 年	
18	谷内六郎	雪渡り	4 点	水彩・紙	1976 年	
19	深澤紅子	雪わたり	3 点	インク・紙／水彩、鉛筆・紙	1972 年	
20	堀内誠一	雪わたり	4 点	アクリル・紙	1969 年	
21	矢吹申彦	雪わたり	4 点	アクリル・ボード	1992 年	
22	伊勢英子	よだかの星	4 点	アクリル・紙	1986 年	
23	工藤甲人	よだかの星	4 点	彩色・紙	1984 年	
24	村上康成	よだかの星	4 点	不透明水彩・紙	2005 年	
25	小林敏也	オッペルと象	5 点	インク・スクラッチボード	1987 年	
26	スズキコージ	オツペルと象	4 点	水彩、ガッシュ・紙	1993 年	
27	武井武雄	オッペルと象	4 点*	水彩・紙	1971 年	岡谷市教育委員会
28	長谷川義史	オツペルと象	4 点	アクリルガッシュ・紙	2005 年	
29	榛葉苔子	なめとこ山のくま	4 点	パステル・紙	1984 年	
30	中村道雄	なめとこ山の熊	4 点	木	1986 年	
31	矢吹申彦	なめとこ山の熊	3 点	アクリル・ボード	1992 年	
32	佐藤(佐伯)義郎	やまなし	4 点	水彩・紙	1946 年	
33	安藤徳香	やまなし	4 点	アクリル・紙	1986 年	
34	小林敏也	やまなし	7 点	インク・スクラッチボード	1985 年	
35	遠山繁年	やまなし	4 点	リトグラフ・紙	1987 年	
36	村上勉	狼森と筑森、盗森	5 点	水彩・紙	1996 年	
37	伊勢英子	ざしき童子のはなし	4 点	アクリル・紙	1985 年	
38	おぼまこと	鹿踊りのはじまり	3 点	ロットリング、色鉛筆・紙	1992 年	
39	たかしたかこ	鹿踊りのはじまり	4 点	パステル・紙	1994 年	
40	赤羽末吉	水仙月の四日	4 点	彩色、銀箔、ボール	1969 年	ちひろ美術館

			4点*	ペン、墨、コンテ・紙		
41	荒井良二	シグナルとシグナレス	4点	ガッシュ・紙	1993年	
42	伊藤亘	度十公園林	4点	水性ステイン・紙	1987年	
43	北見隆	檜ノ木大学士の野宿	4点	アクリルガッシュ・画布	1993年	
44	スズキコージ	グスコブドリの伝記	4点	水彩、ガッシュ・紙	1993年	
45	春日部たすく	グスコブドリの伝記	1点	水彩・紙	1963年	
46	遠山繁年	月夜のでんしんばしら	4点	アクリルほか・紙	1989年	
47	牧野鈴子	双子の星	4点	アクリル、油彩、紙・ミクストメディア	1993年	
48	木葉井悦子	貝の火	4点	水彩、色鉛筆・紙	1993年	
49	妹尾一朗	十力の金剛石	4点	アクリル・キャンバス／アクリル・板	1983年	
50	いわさきちひろ	おきなぐさ（花の童話集より）	4点	墨、鉛筆・紙	1969年	ちひろ美術館
51	赤羽末吉	ひかりの素足	5点 5点*	日本画顔料・紙	1990年	ちひろ美術館
52	ささめやゆき	ガドルフの百合	4点	アクリル・紙	1996年	
53	司修	雁の童子	4点	クレパス、アクリル、テンペラ・紙	2004年	
54	司修	雁の童子	1点	油彩・板	2004年	
55	近藤弘明	ひのきとひなげし	4点	岩彩・紙	1986年	
56	いわさきちひろ	黄いろのトマト（花の童話集より）	8点*	墨・鉛筆・紙	1969年	ちひろ美術館
57	佐藤（佐伯）義郎	猫の事務所	1点	水彩・紙	1949年	
58	原田紀子	猫の事務所	4点	木版・紙	2003年	
59	深澤省三	カイロだんちょう	4点	ガッシュ・紙	1979年	
60	村上勉	カイロ団長	4点	水彩・紙	1992年	
61	加藤宇章	蛙のゴム靴	4点	アクリルガッシュ、パステル、色鉛筆ほか・紙	1992年	
62	飯野和好	クンねずみ	4点	水彩、鉛筆、色鉛筆・紙	1993年	
63	中村道雄	土神と狐	4点	木	1994年	
◎絵画						
1	三橋節子	おきなぐさの星	1点	彩色・紙	1971年	長等創作展示館
2	三橋節子	よだかの星	1点	彩色・紙	1971年	長等創作展示館
3	関野準一郎	宮沢賢治肖像	1点	木版・紙	1953年	
4	棟方志功	不來方板画柵	双幅	木版・紙	1952年	日本民藝館
5	小林敏也	雨ニモマケズ	4点	木版・紙	1991年	
◎初版本						
1	菊池武雄：挿画・装幀	注文の多い料理店	1点	書籍	1924年	
2	棟方寅雄：挿画	北守将軍と三人兄弟の医者	1点	書籍	1931年	花巻市立花巻図書館
3	棟方志功：挿画	グスコブドリの伝記	1点	書籍	1932年	花巻市立花巻図書館
4	小穴隆一：挿画	風の又三郎	1点	書籍	1939年	
5	横井弘三：挿画・装幀	グスコブドリの伝記	1点	書籍	1941年	
6	野間仁根：挿画・装幀	銀河鉄道の夜	1点	書籍	1941年	
7	佐藤（佐伯）義郎：挿画	やまなし	1点	書籍	1946年	
8	野間仁根：挿画／里見勝蔵：扉絵／寺田政明：装幀	カイロ団長	1点	書籍	1947年	宮沢賢治記念館
9	佐藤（佐伯）義郎：挿画	貝の火	1点	書籍	1947年	
10	佐藤（佐伯）義郎：挿画	二十六夜	1点	書籍	1948年	
11	川上四郎：挿画／寺田政明：装幀	ふたごの星	1点	書籍	1948年	花巻市立花巻図書館
12	須田壽：挿画／小穴隆一：装幀	種山ヶ原	1点	書籍	1948年	
13	横井弘三：挿画／寺田政明：装幀	なめとこ山の熊	1点	書籍	1948年	
14	棟方志功：装幀	四又の百合	1点	書籍	1948年	
15	河目悌二：挿画／寺田政明：装幀	かりの童子	1点	書籍	1949年	
16	佐藤（佐伯）義郎：挿画／恩地孝四郎：装幀	北斗物語	1点	書籍	1949年	
17	山口薫：挿画／恩地孝四郎：装幀	北斗物語	1点	書籍	1949年	宮沢賢治記念館

18	佐藤(佐伯)義郎:挿画	猫の事務所	1点	書籍	1949年	
19	高橋忠彌	風の又三郎	1点	書籍	1950年	宮沢賢治記念館
20	関野準一郎	又三郎異聞	1点	書籍	1952年	宮沢賢治記念館
21	堀文子:挿画	セロひきのゴーシュ	1点	書籍	1954年	

※当館で会期中一部展示替を行った。※当館で展示されなかったものは作品・資料名のあとに＊を付した。

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
全天周デジタル映像 「銀河鉄道の夜」上映	9月15日(土)～11月4日(日)の土日祝日 10:00～、11:00～、13:00～、14:00～、15:00～ 平塚市博物館プラネタリウムにて各回約30分上映。観覧料100円。 ※中学生以下は無料。宮沢賢治展の観覧券半券でも観覧可。 ※各回定員70人	計8,388人
こどもお話し会	平塚市中央図書館 9月19日、10月3日/10日/17日/24日 毎水曜 15:30～16:00	134人
映画会	平塚市中央図書館 10月6日(土)/7日(日)/8日(月)/10日(水)	計183人
本の展示	平塚市中央図書館 9月15日(土)～10月30日(火)	集計なし
友の会ギャラリートーク	10月13日(土)10:30～11:30 美術館展示室 土方明司(当館館長代理)	70人
団体むけレクチャー	9月27日(木)大神公民館・10月3日(水)七沢学園・5日(金)管内指導主事・ 11日(木)青山学院同窓会湘南支部文化を楽しむ会・18日(木)崇善公民館・ 20日(土)伊勢原立正幼稚園・25日(木)四之宮公民館・11月1日(木)岡崎公民館	計321人

●展覧会図録

絵で読む宮沢賢治展—賢治と絵本原画の世界

発行年月	2007年7月
価格	2,200 円
体裁	25.8cm×19.0cm、272頁
テキスト	原子朗「画面と「singing line」—「絵で読む宮沢賢治展」に寄せて—」 天沢退二郎「〈さし絵〉のもつ不思議な力—賢治童話の場合—」 笹本純「賢治作品の絵本化というチャレンジ」 平澤広「宮沢賢治と色彩語彙」 中村美幸「賢治童話と視覚化の背景」
図版	365点 他
資料等	略年譜 作家略歴 出品リスト
編集	千葉瑞夫・平澤広・伊藤真紀子・小原伸博(萬鉄五郎記念美術館) 土方明司・郡司亜也子(平塚市美術館) 中村美幸(下関市立美術館)
印刷	杜陵高速印刷株式会社
発行	萬鉄五郎記念美術館、平塚市美術館、下関市立美術館、東京新聞

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
7月10日(火)	「MOE おすすめ今月の展覧会『たくさんの資料と絵で再認識する賢治の世界』」MOE 10月号通巻29号
7月10日(火)	「絵で読む宮沢賢治展」月刊美術 385号
7月11日(水)	「12年ぶり『生』賢治 自筆の手帳・絵画、全国で公開」朝日新聞
7月11日(水)	「今日は何する?どこ行く? 今月のいろいろ Memo RANDOM」家庭画報 50号
9月	「絵で読む宮沢賢治展」アート・トップ 9月号 通巻217号
9月 3日(月)	「絵で読む宮沢賢治展」東京新聞
9月14日(金)	「賢治の世界に触れてみよう『絵で読む宮沢賢治展』」湘南ホームジャーナル 第1284号
9月14日(金)	「『雨ニモマケズ』賢治の手帳公開」朝日新聞
9月16日(日)	「『雨ニモマケズ』賢治の手帳12年ぶり公開」東京新聞
9月28日(金)	丸山孝「『雨ニモマケズ』手帳や絵画 12年ぶり直筆公開」神奈川新聞
10月3日(水)	「マリオン」朝日新聞
10月14日(日)	三上満「部屋いっぱいドラマチックな世界」しんぶん赤旗日曜版
10月23日(火)	山室桃「“雨ニモマケズ”手帳に込めた思い」NHK首都圏ネットワーク

(2) 特集展

平成 17 年度より当館所蔵品による「常設展」を廃し、テーマ性をもった展示「特集展」を企画している。所蔵作品の展示を中心とするが、加えて美術館が注目する作家等の個展も開催する。

1 新収蔵品展

会期：2007 年 4 月 14 日(土)～5 月 27 日(日)



上野泰郎《東邦の人々》当館蔵

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200円、高大生 100円 ※各減免を除く
日数	39日間
入場者数	15,286人
担当	勝山滋（当館学芸員）

●内容

2005 年度、2006 年度にあらたに寄贈、寄託をうけた作品のなかから、17 点を選び展示しました。

このうち日本画では山本丘人に師事した上野泰郎(うへのやすお・1926-2005)、同じく創画会で活躍する津田一江(つだかずえ・1950-)、日本美術院に出品を重ねる若手の川瀬伊人(かわせよしひと・1973-)、平塚名産のバラを描く大河内正夫(おおこうちまさお・1920-)、油彩では平塚出身の鳥海青児(ちょうかいせいじ・1902-72)、大河内信敬(おおこうちのぶひろ・1903-67)など、近現代を彩る 7 名の作家による人体表現、風景表現の変遷を追いました。

●出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵先
1	大河内 正夫	薔薇	不詳	彩色・紙	(当館寄託)
2	荻須 高德	巴里郊外	1940年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
3	鳥海 青児	夜のノートル・ダーム	1932年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
4	津田 一江	Notre Dame de Paris ゆふさり	2003年	彩色・紙	当館
5	川瀬 伊人	月の光	2000年	彩色・紙	当館
6	上野 泰郎	さすらう	1976年	彩色・紙	当館
7	津田 一江	横たわる	1983年	彩色・紙	当館
8	上野 泰郎	東邦の人々	1967年	彩色・紙	当館
9	津田 一江	平成四年夏・一江	1992年	彩色・紙	当館
10	大河内 信敬	凝視	1938年	油彩・キャンバス	当館
11	鳥海 青児	セリスト(B)	1937年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
12	鳥海 青児	道化	1938年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
13	鳥海 青児	高カラーの男	1938年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
14	保田 春彦	遠い風景 I	2001-02年	鉄	当館
15	保田 春彦	遠い風景 G	2001-02年	鉄	当館
16	保田 春彦	遠い風景 J	2001-02年	鉄	当館
17	保田 春彦	遠い風景 C	2001-02年	鉄	当館

2 所蔵品選 画家たちの夏休み 湘南ひらつか七夕まつり協賛

会期：2007年6月1日(金)～7月22日(日)



小関利雄《動物日記 水泳大会》当館蔵

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200 円、高大生 100 円 ※各減免を除く
日数	45 日間
入場者数	2,841 人
担当	小池光理（当館学芸員）

●内容

この夏の特集展では、「画家たちの夏休み」と題して《夏の風物》が描かれた作品を中心に展示を行いました。展示作品においては、「たぶん夏に描かれたのだろう」あるいは「夏にふさわしい光景」ととらえたものもあります。夏休みの宿題で絵を描かれたことがある多くの方々に、自分の身近な視点から、多様な画家の作品に接していただけたら、そして「自分だったらこんな風に描く」「こんなテーマがあったんだ…」と感じて、作品に親しみをもっていたらと思います。初出品作品としては、平塚在住の画家江添栄一郎(えぞええいいちろう・1930-)の壁画原画2点を展示。作品は

平塚市体育館の大陶板壁画として現在も見ることができます。

この特集展ではまた、会期中に開催された《平塚七夕まつり：会期7月5～8日》にあわせて、七夕記念コーナーを設けました。泉屋博古館分館のご厚意により、上島鳳山(うへしまほうざん・1875-1920)の「十二月美人」を展示。《七月の七夕》はもとより、12ヶ月折々の季節の風物に美人を配した十二幅の作品により、紹介されることの少ない「大阪の美人画」の迫力と美しさを伝えました。

●出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	材質	所蔵先
1	井上 三綱	叩かれた蚊	不詳	墨、弁柄、胡粉・紙	当館
2	今村 紫紅	水汲む女・牛飼う男	1914 年	彩色・紙	当館
4	今村 紫紅	熱国之巻(小下絵)	1914 年頃	彩色・紙	当館
5	小関 利雄	丘の街スペイン	1963 年	油彩・キャンバス	当館
6	小関 利雄	動物日記 水泳大会	1984 年	油彩・キャンバス	当館
7	岡田三郎助	五葉蔦	1909 年	油彩・キャンバス	泉屋博古館分館
8	岸田 劉生	石垣ある道	1921 年	油彩・キャンバス	当館
9	工藤 甲人	次郎雲	1970 年	彩色・紙	当館
10	工藤 甲人	天星(アンドロメダ)	1981 年	彩色・紙	当館
11	国領 経郎	海 景	1968 年	油彩・キャンバス	当館
12	国領 経郎	たち葵	1970 年	鉛筆・紙	当館
13	国領 経郎	たち葵	1970 年頃	鉛筆・紙	当館
14	鳥海 青児	横堀角次郎の昼寝	1926-30 年	鉛筆・紙	当館
15	鳥海 青児	アルジェ風景	1932 年	油彩・キャンバス	当館
16	鳥海 青児	沖縄風景	1940 年	油彩・キャンバス	当館
17	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959 年	油彩・キャンバス	当館
18	鳥海 青児	スペイン風景	1959 年	油彩・キャンバス	当館
19	鳥海 青児	メキシコの西瓜	1961 年	油彩・キャンバス	当館
20	鳥海 青児	ブラインドを降ろす男	1962 年	木版・紙	当館
21	鳥海 青児	果汁を吸うマヤ人	1964 年	油彩・キャンバス	当館

22	鳥海 青児	裸婦	不詳	エッチング・紙	当館
23	中村 青田	七 夕	1970 年頃	木彫	当館
24	中村 琢二	女	1956 年	油彩・キャンバス	当館
25	中村 琢二	南伊豆	1984 年	油彩・キャンバス	当館
26	鍋井克之	琵琶湖のヨット	1950 年	油彩・キャンバス	当館
27	真垣武勝	エーゲ海の聖堂	1977 年	油彩・キャンバス	当館
28	松林千里	鞆之浦	1910 年頃	油彩・キャンバス	当館
29	松林千里	斜陽	1910 年頃	油彩・キャンバス	当館
30	松本 節	雛芥子	1930 年頃	油彩・キャンバス	当館
31	松本 節	庭	1930 年	油彩・キャンバス	当館
32	松本 節	温室	1931 年	油彩・キャンバス	当館
33	松本 節	ひまわりと雲	1937 年	油彩・キャンバス	当館
34	安田 靱彦	相撲の節	1912 年頃	彩色・絹	当館
35	山本 丘人	島の女	1935 年頃	彩色・絹	当館
36	萬 鉄五郎	風景	1921-27 年	墨・紙	当館
37	萬 鉄五郎	田園風景	1922 年	墨・紙	当館
38	萬 鉄五郎	茅ヶ崎風景	1925 年	墨・紙	当館
39	江添 栄一郎	美の祭典	1991 年	油彩・キャンバス	当館寄託
40	江添 栄一郎	人間讃歌	1991 年	油彩・キャンバス	当館寄託
41	上島 鳳山	《十二月美人》一月子日	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※後期出品	泉屋博古館分館
42	上島 鳳山	《十二月美人》二月羅浮山	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※前期出品	泉屋博古館分館
43	上島 鳳山	《十二月美人》三月観桜	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※後期出品	泉屋博古館分館
44	上島 鳳山	《十二月美人》四月郭公	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※前期出品	泉屋博古館分館
45	上島 鳳山	《十二月美人》五月青楓	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※後期出品	泉屋博古館分館
46	上島 鳳山	《十二月美人》六月青簾	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※前期出品	泉屋博古館分館
47	上島 鳳山	《十二月美人》七月七夕	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※後期出品	泉屋博古館分館
48	上島 鳳山	《十二月美人》八月姮娥	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※前期出品	泉屋博古館分館
49	上島 鳳山	《十二月美人》九月菊花	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※後期出品	泉屋博古館分館
50	上島 鳳山	《十二月美人》十月紅葉	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※前期出品	泉屋博古館分館
51	上島 鳳山	《十二月美人》十一月茶花	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※後期出品	泉屋博古館分館
52	上島 鳳山	《十二月美人》十二月雪路	1909 年頃	彩色・絹（十二幅）※前期出品	泉屋博古館分館

※作品保護のため展示替えを行った。前期：6月1日(金)～24日(日)/ 後期：6月26日(火)～7月22日(日)

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
団体むけレクチャー	6月12日(火)「城島ふれあいの里」運営協議会 7月13日(金) 湘南ステーションビル平塚ラスカ 他	計 85 人

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
6月 6日(水)	「タウン沿線情報 夏を彩る名画の数々を展示」 Yokohama Walker
5月31日(木)	「絵で感じる夏休み 特集展『画家たちの夏休み』」タウンニュース
6月22日(金)	「平塚市美術館特集展 画家たちの夏休み」 湘南ホームジャーナル第1273号
7月11日(水)	小林一登「大陶板壁画の原画2点展示 平塚市美術館」 神奈川新聞

3 齊藤典彦展—きもちよくながれる—

会期：2007年7月27日(金)～9月24日(月・振休)

種別 特集展
主催 平塚市美術館、日本経済新聞社
観覧料 一般 200 円、高大生 100 円 ※各減免をのぞく
日数 52日間
入場者数 12,725人
担当 勝山滋(当館学芸員)



図録



会場

リーフレット

●内容

齊藤典彦(さいとうのりひこ・1957-) は平塚市に生まれ、現代日本画の実力作家として活躍しています。東京芸術大学在学中の 1976 年に創画展に初入選。1989 年第 10 回山種美術館賞展出品の《Shaman Moon》が優秀賞を受賞。木片を貼り付けた実験的な半立体作品にはアニミズムへの憧憬を感じさせ、おおいに注目を集めます。東京芸大同年代の岡村桂三郎、河嶋淳司、千住博とともに次代を担う作家として活躍し、1993 年、代表作《Nachi》(東京国立近代美術館蔵)では名瀑・那智滝の水流を、中央に空けた空間で表わす現代的な知性が高く評価され、文化庁買い上げとなります。創画展では創画会賞、春季展賞の受賞を重ねるほか、1995 年から 96 年にかけて文化庁派遣芸術家在外研修員としてロンドンに留学。この頃から水の国、日本を表す新たな山水として《Water Land》シリーズを制作し、また《Luminous》シリーズでは重ねて描いた岩絵具を透かして絹地や岩絵具がほのかな光を放ち、冬の光が見事に表現されています。これらの作品では、自然に潜む目に見えない根源的な気配が表され、多様性を帯びる現代日本画の世界観で注目されています。

公立美術館ではじめての本格的回顧展となる本展では、1982 年作から新作まで 37 点の作品により、岩絵具の発色を最大限に生かしたスケールの大きな作品を堪能し、ご鑑賞いただき、画業の全容を紹介しました。

●出品リスト

No.	作品名	制作年	材質・装丁	所蔵先
1	博物誌	1982 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	
2	博物誌—鳥	1987 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	
3	Shaman Moon	1989 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙・板	山種美術館
4	Shaman Moon	1989 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙・板	
5	死者の舟	1989 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙・板	
6	Shaman Moon	1989 年	岩絵具、石膏、膠・雲肌麻紙	
7	MORI O OMOU-3	1991 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙・板	
8	MORI O OMOU-8	※後期展示 1992 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙・板	
9	翼について	1992 年	岩絵具、膠、シナベニヤ・板	
10	Nachi	※前期展示 1993 年	岩絵具、膠、シナベニヤ・パネル	東京国立近代美術館
11	MORI O OMOU-15	1993 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙・板	

12	Water Land-7	1994 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	
13	Water Land-18	1995 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	練馬区立美術館寄託
14	Water Land-19	1995 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	賛美小舎
15	Heather の丘	1997 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	
16	Water Land-40	1998 年	岩絵具、膠、絹・パネル	
17	Heather Dale	1998 年	岩絵具、膠、絹・パネル	
18	rites of passage	1999 年	岩絵具、膠、水彩紙・パネル	
19	Willow Brook	1999 年	岩絵具、膠、絹・パネル	
20	Luminous (1)	1999 年	岩絵具、膠、絹・パネル	(当館寄託)
21	Luminous (2)	1999 年	岩絵具、膠、絹・パネル	(当館寄託)
22	Luminous (3)	1999 年	岩絵具、膠、絹・パネル	(当館寄託)
23	冬の光-luminous	1999 年	岩絵具、膠、絹・パネル	
24	かのみず	2001 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙、絹・パネル	
25	かのみず	2001 年	岩絵具、膠、絹・パネル	
26	彼の水へ	2001 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙、雁皮紙・パネル	
27	かのみず	2002 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙・パネル(3 枚)	
28	みなもー r b	2003 年	岩絵具、膠、絹	練馬区立美術館寄託
29	みなもーゆらぐ水 ※前期展示	2003 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	
30	みなもー t g 03	2004 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	広島市立大学芸術資料館
31	in her land	2005 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	
32	in her garden	2005 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	賛美小舎
33	in her garden	2005 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙、雁皮紙	
34	in her garden ※前期展示	2006 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	
35	彼の丘	2006 年	岩絵具、膠、大漉紙	
36	彼の丘 ※後期展示	2006 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	
37	みなもー t g 04	2005-07 年	岩絵具、膠、雲肌麻紙	

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
斉藤典彦先生にきく	8月19日(日) 14:00-15:30 美術館ミュージアムホール お話：斉藤典彦氏 聞き手：勝山滋（当館学芸員）	108人
作家によるギャラリートーク	9月22日(土) 14:00-15:00 美術館展示室 お話：斉藤典彦氏	76人
学芸員によるギャラリートーク	8月25日(土) 14:00-15:00 美術館展示室 勝山滋（当館学芸員）	27人
作家によるこども日本画教室 「岩絵具で描いてみよう」	8月 4日(土) 13:00-16:30 美術館アトリエ 講師：斉藤典彦氏	19人

●展覧会図録

斉藤典彦展ーきもちよくながれる

発行年月	2007年7月
価格	1,500 円
体裁	22.5cm×27.5cm、72頁
テキスト	作家対談「斉藤典彦の芸術はどこから生まれ、どこへ行くのか」 聞き手 草薙奈津子(当館館長) 勝山滋「斉藤典彦ーきもちよくながれる」
図版	作品37点 他
資料等	年譜、参考文献、出品目録
編集	勝山滋（平塚市美術館）
印刷	光村印刷株式会社
発行	平塚市美術館、日本経済新聞社

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
7月	林浩之「中特集 斉藤典彦 いろと物質の間から」 アート・トップ 7月号 通巻216号
7月 8日(日)	「画面に潜む気配の美ー斉藤典彦回顧展、故郷平塚にて開催」 月刊美術 383号
7月26日(木)	「人物風土記 本質を捉えて描きたい」 タウンニュース No.1007
7月27日(金)	「斉藤典彦展ーきもちよくながれるー」 湘南ホームジャーナル 第1278号
8月19日(日)	「斉藤典彦展ーきもちよくながれるー」 NHK 新日曜美術館・アートシーン
8月21日(火)	勝山滋「斉藤典彦展ーきもちよくながれるー『日本画の本質見据える強さ』」 新美術新聞
9月 7日(金)	藤島俊会「神奈川の美術展評」 神奈川新聞

4 自然を描く―所蔵名品選―

会期：2007年9月28日(金)～11月25日(日)



工藤甲人《わが壁に》 当館蔵

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200 円、高大生 100 円 ※各減免を除く
日数	51 日間
入場者数	12,807 人
担当	小池光理（当館学芸員）

●内容

湘南地域は、明治の頃から別荘地、療養地として注目され、温暖な気候にひかれて、数多くの芸術家がこの地で制作活動を行ってきました。当館では、彼らの描いた作品を収集の中心としています。

この展覧会では、「自然を描く」と題して、画家が自然に相對して描き出す情景の多様性を展観しました。

たとえば明治という時代を迎えて、日本絵画の近代化をめざした画家たちが描いた風景画―大正期には岸田劉生(きしだりゅうせい・1891-1929)や萬鉄五郎(よろずてつごろう・1885-1927)が、療養先の土地を取材して、数々の湘南の風景画を残しました。彼らに学んだ鳥海青児(ちょうかいせいじ・1902-1972)は、大地の量感を独自の表現で試み、その独創的な風景画は他の追随を許しません。また、工藤甲人(くどうこうじん・1915-)や近藤弘明(こんどうこうめい・1924-)の自己の内面を見つめてそれを自然に投影させ、幻想的な空間を表現した活動などは、幅広く「自然」をモチーフにした作品をうみだしました。当館の所蔵・寄託作品の中から選りすぐりました風景画 47 点によって、湘南に集った作家たちの生き活きとした活動を紹介しました。

●出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
1	麻田 鷹司	伊豆長津呂(断層)	1958 年	彩色・紙
2	伊藤 彬	帰山	1988 年	彩色、墨・紙
3	伊藤 彬	帰林帰水	1994 年	墨、木炭・麻紙
4	井上 三綱	箱根紅葉	1941 年	油彩・キャンバス
5	今村 紫紅	老松	1911 年	彩色・紙
6	今村 紫紅	瀧	1915 年	墨・紙
7	大島 哲以	華燭	1971 年	アクリル、ガッシュ・キャンバス
8	岡本 秋暉	群鷺図	1856 年	墨・紙
9	岡本 秋暉	月下双鹿図	19 世紀半ば	彩色・紙
10	岡本 秋暉 福田 半香	松に飛鶴図	19 世紀半ば	彩色・紙
11	岸田 劉生	永日小品	1926 年	彩色・紙
12	工藤 甲人	樹木のうた	1956 年	彩色・紙
13	工藤 甲人	わが壁に	1985 年	彩色・紙
14	工藤 甲人	残像図	1986 年	彩色・紙
15	工藤 甲人	寂光土	1994 年	彩色・紙
16	工藤 甲人	風鳥	1961 年	彩色・紙
17	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896 年	油彩・板
18	国領 経郎	寂夏	1983 年	油彩・キャンバス
19	近藤 弘明	寂韶苑	1982 年	彩色・紙
20	近藤 弘明	寂照夜	1992 年	彩色・紙
21	里見 勝蔵	イビサの田野	1961 年	油彩・キャンバス
22	下村 観山	竹林之図	1918 年頃	墨・絹
23	高島 達四郎	樹木・箱根連山	不詳	油彩・キャンバス
24	鳥海 青児	水田	1936 年	油彩・キャンバス
25	鳥海 青児	石橋のある風景	1937 年	油彩・キャンバス
26	鳥海 青児	蘇州風景	1939 年	油彩・キャンバス

27	鳥海 青児	アカシア	1941 年	油彩・キャンパス
28	鳥海 青児	林泉	1947 年	油彩・キャンパス
29	鳥海 青児	石だたみ	1962 年	油彩・キャンパス
30	椿 貞雄	鶴沼風景	1921 年	油彩・キャンパス
31	中野 嘉之	樹―風の音	1988 年	彩色・紙
32	林 倭衛	白い橋と緑樹	1921-28 年	油彩・キャンパス
33	二見 利節	男鹿の景	1941 年頃	油彩・キャンパス
34	本荘 赳	療養所のある丘	1987 年	油彩・キャンパス
35	松林 桂月	秋江晚眺図	1939 年	彩色・絹
36	松林 桂月	春溪汲水図	1939 年	彩色・絹
37	松林 千里	嵐の後	1940 年	油彩・キャンパス
38	松本 節	柿の木のある風景	1940 年	油彩・キャンパス
39	三宅 克己	郊外 戸山原	1911-19 年	水彩・紙
40	山下 大五郎	平塚風景	1930 年	油彩・キャンパス
41	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936 年	油彩・キャンパス
42	山本 丘人	奔流	1954 年	彩色・絹
43	山本 丘人	岩壁	1958 年	彩色・紙
44	横山 大観	不盡之高嶺	1915 年	彩色・絹
45	萬 鉄五郎	風景（塀の見える風景）	1915 年	油彩・キャンパス
46	萬 鉄五郎	茅ヶ崎風景	1922 年	墨・紙
47	萬 鉄五郎	茅ヶ崎風景（海岸風景）	1924 年	油彩・キャンパス

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
写真で表現-懐かしい場所・記憶としての湘南の風景-	11 月 17 日(土)/25 日(日)、12 月 9 日(日) 各日 13:00-16:30 美術館アトリエ 講師：川廷昌弘氏（写真家）	計 47 人

5 平野杏子展

会期：2007 年 11 月 10 日(土)～2008 年 1 月 20 日(日)

種別 特集展
主催 平塚市美術館
後援 神奈川新聞社
観覧料 一般 200 円、高大生 100 円 ※各減免をのぞく
日数 56日間
入場者数 4, 853人
担当 勝山滋（当館学芸員）



リーフレット



会場

●内容

平塚在住の作家、平野杏子(ひらのきょうこ・1930-)の公立美術館におけるはじめての本格的回顧展を開催しました。

平野杏子は現在の神奈川県伊勢原市に生まれ、大久保作次郎、長屋勇、三岸節子に師事。具象的な風景、静物に早熟の才をみせ、しだいに仏教に傾倒し、抽象的な画風による大作を発表。潮展に創立時から出品するほか、インドや韓国で精力的な取材を行い、本人による慶州南山磨崖仏拓本が、2006年に国立九州博物館に寄贈されました、またサロン・ド・メ展への招待出品など、国内外で幅広く活躍しています。

本展では、1951年の旺玄会展出品作品から最新作にいたる45点の油彩、版画、立体作品により、多彩な作品世界を回顧しました。

●出品リスト

No.	作品名	制作年	材質・技法	初出展覧会	所蔵先
1	伊勢原風景	1951年	油彩・キャンバス	第7回旺玄会	
2	さんま	1952年	油彩・キャンバス	第6回旺玄会	
3	壺	1952年	油彩・キャンバス	第6回旺玄会	
4	庭の壺	1952年	油彩・キャンバス	第8回日展	
5	窓辺	1952年	油彩・キャンバス	第8回旺玄会	
6	輪廻の章Ⅲ	1961年	油彩・キャンバス	第5回現代日本美術展	
7	触手のある暦	1962年	油彩・キャンバス	個展	
8	静寂	1963年	油彩・キャンバス	エコール・ド・トウキョウ ロス展	当館
9	夜の異邦者	1969年	油彩・キャンバス	第1回潮展	
10	蘇生するオフェリア	1969年	油彩・キャンバス	第1回潮展	
11	夜の解和	1969年	油彩・キャンバス	第1回潮展	
12	菩提樹の下のある日	1970年	油彩・キャンバス	第2回潮展	
13	迦毘羅城の黄昏	1971年	油彩・キャンバス	第3回潮展	
14	悪魔梵天	1971年	油彩・キャンバス	第3回潮展	
15	龍生九子	1971年	油彩・キャンバス	第3回潮展	
16	天平の饗宴	1972年	油彩・キャンバス	第4回潮展	
17	夜の蜘蛛と毘陀多	1972年	油彩・キャンバス	第4回潮展	
18	善財南へ行く	1974年	油彩・キャンバス	第6回潮展	(当館寄託)
19	ボロボドールの善財童子	1974年	油彩・キャンバス	第6回潮展	
20	深海の封印	1977年	油彩・キャンバス	第9回潮展	
21	受難華	1977年	油彩・キャンバス	第9回潮展	
22	蘇生する善知識	1978年	油彩・キャンバス	第10回潮展	(当館寄託)
23	輪廻の光芒	1978年	油彩・キャンバス	第10回潮展	
24	磨崖仏讃Ⅰ	1978年	油彩・キャンバス	個展	
25	磨崖仏讃Ⅱ	1978年	油彩・キャンバス	個展	
26	磨崖仏讃Ⅲ	1978年	油彩・キャンバス	個展	
27	盤亀台A	1979年	油彩・キャンバス	第11回潮展	
28	春林天	1980年	油彩・キャンバス	サロン・ド・メ展	
29	春林天Ⅰ	1981年	油彩・キャンバス	第13回潮展	
30	石花天Ⅰ	1982年	油彩・キャンバス	第14回潮展	
31	石花天	1982年	油彩・キャンバス	第3回現代女流美術展	
32	飛石天	1984年	油彩・キャンバス	第5回現代女流美術展	
33	神々の園	1988年	油彩・キャンバス	第9回現代女流美術展	社会福祉法人 同愛記念病院
34	海の巢	1990年	FRP・金箔		
35	青い太陽Ⅳ	1990年	油彩・キャンバス	第11回女流画家展	社会福祉法人 同愛記念病院
36	芽生える	1991年	ブロンズ		
37	青い太陽Ⅱ	1991年	油彩・キャンバス	第12回現代女流美術展	
38	青い太陽	1991年	油彩・キャンバス	第8回女流画家展	当館
39	春のひびき	1992年	FRP・金箔		
40	出口のない海	1996年	油彩・キャンバス	第17回現代女流美術展	
41	青海波	2002年	シルクスクリーン・キャンバス		
42	オトタチバナヒメ	2002年	シルクスクリーン・紙		
43	天の秘	2007年	油彩、アクリル、シルクスクリーン・キャンバス		
44	海なりの湾	2007年	アクリル、シルクスクリーン・キャンバス		
45	遠雷	2007年	アクリル、シルクスクリーン・キャンバス		

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
学芸員によるギャラリートーク	12月8日(土) 14:00-15:00 美術館展示室 土方明司(当館館長代理)	40人

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
11月	「平野杏子展」 月刊ギャラリー 第271号
11月 1日(木)	「平野杏子展ー公立美術館で初めての回顧展」 新美術新聞 No. 1135
11月 7日(水)	「待望久しい平塚在住作家の特集展ー平野杏子展」 湘南ホームジャーナル
11月 7日(水)	「平塚の洋画家 平野杏子さんー半世紀越す画業回顧」 神奈川新聞
11月 9日(金)	「平野杏子展ー韓国の仏跡を描く」 東洋経済日報
11月15日(木)	「待望久しい平塚ゆかりの作家ー平野杏子展」 週刊芸術新聞
11月22日(木)	「女性作家、半世紀の軌跡ー市美術館で『平野杏子展』開催中」 タウンニュース
12月 7日(金)	藤島俊会「神奈川の美術展評」 神奈川新聞
08年1月 6日(日)	「平野杏子展」 NHK 新日曜美術館・アートシーン
08年1月 9日(水)	「ミュージアム 平野杏子展」 朝日新聞(神奈川マリオン)
08年1月11日(金)	「平野杏子展ー病経て具象から抽象へ」 読売新聞(Friday かながわ)

6 所蔵品による冬展ー絵画と写真でつづる冬の情景ー

会期：2007年11月29日(木)～2008年1月27日(日)



濱谷浩《ホンヤラ洞で歌う子供たち》 当館蔵

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200 円、高大生 100 円 ※各減免を除く
日数	48 日間
入場者数	2,776 人
担当	江口恒明(当館学芸員)

●内容

日本においては、古来より四季折々の自然美が描かれてきました。とりわけ冬の風景を描いた作品は、画面上では自然の厳しさを表現しながらも、同時にその背景にある人々のいとなみや、春を待つ自然の息吹といった温かみも感じさせるものです。明治以降、ヨーロッパの絵画が本格的に流入してからも、そうした四季のとらえ方は、様々なジャンルの芸術家たちの心性に色濃く残っているように思われます。

本展では、当館所蔵の絵画・写真の中から、そうした冬の季節を描いた作品 43 点を展示しました。工藤甲人(くどうこうじん・1915-)《蝶の階段》、山本丘人(やまもときゅうじん・1900-1986)《春近し》など、厳しい冬の中に自然の息づかいが描かれた作品から、濱谷浩(はまやひろし・1915-1999)「雪国」シリーズのように、人々の冬の生活を写し撮った作品まで、幅広く冬をテーマとした日本画・洋画・写真の作品を紹介しました。

●出品リスト

No	作家名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵先
1	麻田 鷹司	佐渡	1965 年	彩色・紙	(当館寄託)
2	麻田 鷹司	金閣雪景図	1969 年	彩色・紙	(当館寄託)
3	麻田 鷹司	雪後山水	1970 年	彩色・紙	(当館寄託)
4	麻田 鷹司	雪景	1972 年	彩色・紙	(当館寄託)
5	麻田 鷹司	雪晴	1974 年頃	彩色・紙	(当館寄託)
6	岡本 秋暉	芙蓉遊鴨図	1856 年	彩色・絹	(当館寄託)
7	岡本 秋暉	母子鶴図	19 世紀	彩色・絹	(当館寄託)
8	荻須 高德	巴里郊外	1940 年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
9	大河内 信敬	春雪の森	1962 年	油彩・キャンバス	当館
10	川端 玉章	佐野常世	明治時代	彩色・紙	当館
11	工藤 甲人	蝶の階段	1967 年	彩色・紙	当館
12	工藤 甲人	春を呼ぶ	1971 年	彩色・紙	当館
13	小出 檜重	めでたき風景	1926 年	墨、彩色・紙	当館
14	小糸 源太郎	早春	1942 年	油彩・キャンバス	当館
15	榊原 文翠	鷹野之図	明治時代初期	彩色・絹	当館
16	鈴木 至夫	雪原	1983 年	彩色・紙	当館
17	鈴木 至夫	冬の日本海	1985 年	彩色・紙	当館
18	須田 剋太	文楽おそめ	1967 年	パステル、水彩・紙(色紙)	当館
19	須田 剋太	冬瓜	1967 年	パステル、水彩・紙(色紙)	当館
20	須田 剋太	祝猿	1968 年	パステル、水彩・紙(色紙)	当館
21	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930 年	油彩・キャンバス	当館
22	椿 貞雄	朝子像	1927 年	油彩・キャンバス	当館
23	椿 貞雄	菊子座像	1922 年	油彩・キャンバス	当館
24	濱谷 浩	シン木を立てる	1940-56 年	プリント・印画紙	当館
25	濱谷 浩	マイダマをつくる	1940-56 年	プリント・印画紙	当館
26	濱谷 浩	太刀をつくる	1940-56 年	プリント・印画紙	当館
27	濱谷 浩	鳥追いにでる	1940-56 年	プリント・印画紙	当館
28	濱谷 浩	焼草集めの子供	1940-56 年	プリント・印画紙	当館
29	濱谷 浩	嫁祝い	1940-56 年	プリント・印画紙	当館
30	濱谷 浩	賀祝い	1940-56 年	プリント・印画紙	当館
31	濱谷 浩	フレゴト	1940-56 年	プリント・印画紙	当館
32	濱谷 浩	タイマツのうちあい	1940-56 年	プリント・印画紙	当館
33	濱谷 浩	ホンヤラ洞で歌う子供たち	1956 年	プリント・印画紙	当館
34	本荘 赳	淡雪	1968 年	油彩・キャンバス	当館
35	松林 桂月	山村雪霽図	1945 年	墨・紙	当館
36	松林 桂月	夏山雨後図	1945 年	墨・紙	当館
37	松本 節	早春	1930 年	油彩・キャンバス	当館
38	森川 鎭	大根	1926 年頃	油彩・キャンバス	当館
39	安田 靱彦	阿呼詠詩	1939 年	絹本着色	(当館寄託)
40	安田 靱彦	寒香留古春	1943 年	彩色・紙	当館
41	山本 丘人	春近し	1952 年	彩色・紙	当館
42	山本 丘人	入江	1954 年	彩色・紙	当館
43	萬 鐵五郎	椿	1926 年	油彩・キャンバス	当館

7 ヴンダーリッヒの彫刻

会期：2008 年 1 月 26 日(土)～3 月 30 日(日)

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般200 円、高大生100 円 ※各減免を除く
日数	52日間
入場者数	集計なし（無料のため）
担当	勝山滋（当館学芸員）

●内容 昨年に引き続き、2 度目のロビー展示として開催。今回はドイツ現代美術界を代表する作家のひとり、パウル・ヴンダーリッヒ（Paul Wunderlich/1927-）の寄託作品から、彫刻作品 10 点を選び展示しました。

ヴンダーリッヒは 1960 年代から抽象的な画風の油彩、リトグラフ(石版画)が注目をあび、たびたび各地で受賞し活躍します。1968 年からは立体作品も手がけています。シンボリックな生と死、肉体の表現のなかには、ギリシャ・ローマの古典への憧憬が見られるとともに、ドイツ人としてのアイデンティティーが強く感じられる作品を制作しています。

8 大正の鬼才 河野通勢 新発見作品を中心に

会期：2008年2月2日(土)～3月23日(日)

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200 円、高大生 100 円 ※各減免をのぞく
日数	44日間
入場者数	8,503人
担当	土方明司（当館館長代理）



リーフレット



図録



会場

●内容

河野通勢(こうのみちせい・1895-1950)は、大正期から昭和戦前期にかけて活躍した画家です。高橋由一に学んだと言われる美術教師・写真師であった父河野次郎のもとで絵画を学び、早熟にして天賦の才能を見せます。デューラーなどに影響を受けた細密で存在感あふれる徹底した写実描写で知られる作風は近代美術のなかにあって異彩を放つものです。二科会への出品から、白樺派への接近、そして岸田劉生の率いる草土社へ参加、劉生死後は大衆小説の挿絵を精力的に制作し、近代の画家として小説挿絵の草分け的な存在でもありました。

通勢の絵画は、「何でも描けた」と中川一政に言わしめた天才的な描写力とハリストス正教会の信者としての強い宗教的な内面性を持ちつつ、独特の空想的な物語を包含するものです。それは、画集などをもとにした独学ゆえの特異なものでしたが、神的なものへの憧憬ともみえる精神性は、大正期の時代精神とも通底する生命主義を感じさせます。

近年になって、関係者のもとに大量の未発表作品が発見されました。特に十代から二十代にかけて執拗に描いた裾花川周辺を題材にした初期風景画、そして聖書・神話を題材にした作品群は圧巻です。また『項羽と劉邦』『井原西鶴』などの挿絵原画は、高い密度と完成度があります。さらに、銅版画についても関東大震災に取材した一連の作品は大変貴重なものです。その他にも、日記、覚え書き、スケッチ帖、書簡類などの膨大な資料が新たに見つかりました。それらはより如実に作家の目指していたものを示しており、制作の秘密を明らかにしうるものであり、今までにない河野通勢の作家像を発見することができると思われます。

本展は、代表作を含めながら今回の新発見の作品を中心に展示し、初期作品から制作のなかでひとつの区切りとなった昭和前期までの、河野通勢の特色が明確であった時期に絞って作品を構成しました。ともすれば岸田劉生の陰に沈みがちであった作家像ですが、その原点を今いちど見直すことによって、大正期の美術史の中で極めて個性的な輝きを放つ河野通勢の、今までにない姿を紹介しました。

●出品リスト

No.	作品名	制作年(月日)	材質	所蔵・寄託先
I 初期風景画と裾花川				
1	風景(川)	1911年8月30日	油彩・紙ボード	
2	暮れゆく裾花	1911年10月31日	油彩・紙ボード	
3	長野風景 *	1911年頃	水彩・紙ボード	(当館寄託)
4	ノルマン邸 *	1911年	油彩・紙ボード	(当館寄託)

5	風景	1912年7月7日	油彩・紙ボード	
6	散策	1912年7月13日	油彩・キャンバスボード	長野県信濃美術館
7	梓川河原宿屋前から穂高が嶽を見る	1913年8月23日	油彩・紙ボード	
8	裾花川風景	1914年4月	油彩・キャンバス	八十二銀行
9	裾花川風景	1914年8月	油彩・キャンバス	
10	アダムとイヴ	1914年11月28日	油彩・紙ボード	
11	りんご林	1914年頃	油彩・キャンバス	長野県信濃美術館
12	柳	1915年3月5日	油彩・キャンバスボード	長野県信濃美術館
13	裾花川の河柳	1915年6月23日	油彩・キャンバス	長野県信濃美術館
14	長野風景(長野の近郊)	1915年9月30日	油彩・キャンバス	長野県信濃美術館
15	三人の乞食	1916年2月17日	油彩・キャンバス	長野県信濃美術館
16	風景	1916年4月31日(?)	油彩・キャンバス	調布市武者小路実篤記念館
17	風景	1916年5月15日	油彩・キャンバス	八十二銀行
18	崖	1919年	油彩・キャンバス	横浜美術館
19	ニンフの森 *	1914年3月8日	鉛筆、水彩・紙	
20	丘の上から俯瞰する *	1914年3月11日	ペン、インク/紙	(当館寄託)
21	裾花川	1914年11月20日	水彩・紙	横浜美術館
22	河岸の柳 *	1914年5月6日	鉛筆、コンテ、水彩・紙	
23	裾花川 *	1914年6月10日	コンテ・紙	
24	陽さす雲間と長野遠望 *	1914年7月29日	コンテ・紙	
25	裾花川と男 *	1914年7月30日	コンテ・紙	
26	河柳 *	1914年9月3日	コンテ・紙	
27	長野聖救主教会聖堂 *	1914年9月20日	コンテ・紙	
28	隠田風景 *	1914年10月2日	ペン、青インク・紙	(当館寄託)
29	水道橋 *	1914年10月7日	ペン、青インク・紙	(当館寄託)
30	代々木風景 *	1914年10月14日	ペン、青インク・紙	(当館寄託)
31	河柳 *	1914年11月9日	コンテ・紙	
32	今日も天からの声が聞こえた *	1914年11月16日	コンテ・紙	
33	手を広げる/《アダムとイヴ》下絵 *	1914年	ペン、インク・紙	(当館寄託)
34	自然を創造せんとするには非ずして *	1914年12月16日	ペン、インク・紙	
35	相撲する人々 *	1915年2月5日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
36	山を遠望する長野風景 *	1915年3月9日	ペン、インク・紙	
37	踊る人々 *	1915年3月22日	ペン、インク・紙	
38	エデンの園 *	1915年3月25日	筆、墨、鉛筆・紙	
39	長野風景 *	1915年5月4日	コンテ・紙	
40	木に登る人 *	1915年5月12日	ペン、インク、彩色・紙	(当館寄託)
41	馬車と汽車 *	1915年5月16日	コンテ、水彩・紙	
42	長野監獄 *	1915年5月	コンテ・紙	
43	河柳を見上げる人 *	1915年6月3日	コンテ・紙	
44	木を選んでる画家 *	1915年6月6日	コンテ・紙	
45	《裾花川の河柳》下絵	1915年6月7日	コンテ・紙	
46	霊も肉も芸術のために *	1915年6月10日	コンテ・紙	
47	鳥が飛ぶ冬の河柳 *	1915年頃	コンテ・紙	
48	耕す人々*	1915年7月2日	コンテ・紙	
49	河柳と荷を運ぶ人 *	1915年7月3日	コンテ・紙	
50	丘の上 *	1915年頃	コンテ・紙	
51	荷を背負う *	1915年7月7日	コンテ・紙	
52	トロッコ *	1915年10月9日	コンテ・紙	
53	内へ内へ *	1915年11月2日	コンテ・紙	(当館寄託)
54	二本の河柳 *	1915年12月23-24日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
55	崖と人 *	1916年5月9日	コンテ、筆、墨・紙	
56	旭山をのぞむ裾花川風景 *	1916年5月16日	ペン、インク、彩色・紙	(当館寄託)
57	垣根 *	1916年6月16日	筆、墨・紙	
58	河を探る人 *	1916年10月17日	ペン、インク・紙	
59	風景 *	1916年11月24日	ペン、インク、水彩・紙	(当館寄託)
II 自画像と様々な展開				
1	田中志郎像 *	1913年頃	油彩・キャンバスボード	長野県信濃美術館
2	草川信像	1914年	油彩・キャンバス	
3	バックナール(バックス祭)	1915年3月1日	木炭・紙	
4	指さす裸婦 *	1914年11月11日	油彩・紙ボード	
5	自画像	1915年11月	油彩・キャンバス	
6	梨のある静物	1915年11月10日	油彩・キャンバス	
7	好子像	1916年8月	油彩・キャンバス	東京国立近代美術館
8	自画像	1917年12月21日	油彩・キャンバス	愛知県美術館
9	自画像	1918年2月8日	油彩・板	
10	自画像	1918年2月28日	油彩・紙ボード	
11	自画像	1918年3月2日	油彩・紙ボード	横浜美術館
12	自画像	1918年3月4日	油彩・キャンバス	長野県信濃美術館

13	自画像	1918 年	油彩・板	
14	自画像	1918 年頃	油彩・紙ボード	
15	手と葡萄 *	1918 年頃	油彩・紙ボード	
16	貧しき母子 *	1918 年頃	油彩・キャンバス	
17	林檎	1918 年	油彩・紙ボード	長野県信濃美術館
18	自画像	1919 年	油彩・キャンバス	(財)青春白樺美術館
19	佐久間象山像	1919 年 5 月 8 日	油彩・キャンバス	社団法人金鶏会(長野県立長野高等学校同窓会)
20	土屋増治郎像	1920 年頃	油彩・厚紙	
21	雑司ヶ谷風景	1920 年 2 月 15 日	油彩・キャンバス	長野市立鍋屋田小学校
22	虞美人化粧之図	1921 年	油彩・キャンバス	
23	ロココ風俗婦女閑遊之図	1922 年	油彩・キャンバス	
24	ミケランジェロ模写 *	1914 年 8 月 14 日	鉛筆・紙	
25	模写と言葉 *	1915 年頃	筆、墨・紙	
26	ミケランジェロ模写 *	1915 年 1 月 15 日	ペン、インク・紙	
27	髭男の習作 *	1915 年 1 月 21 日	木炭・紙	
28	布と眠る子 *	1915 年 11 月 3 日	コンテ・紙	
29	小さい庭 *	1916 年頃	筆、墨・紙	
30	道子の肖像 *	1916 年 6 月 11 日	鉛筆・紙	
31	武彦の肖像 *	1916 年 6 月 11 日	コンテ・紙	
32	海神とその子 *	1916 年 6 月 26 日	筆、墨・紙	(当館寄託)
33	駆ける二人の男 *	1916 年 6 月 28 日	コンテ・紙	
34	好子の肖像 *	1916 年 7 月 20 日	コンテ・紙	
35	デューラー模写と好子横顔 *	1916 年 8 月 4 日、19 日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
36	後向きの裸体習作 *	1916 年 8 月 9 日	コンテ・紙	
37	巨人族 *	1916 年 11 月 5 日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
38	怪物の頭 *	1916 年 10 月 10 日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
39	柏の葉 *	1917 年 1 月 1 日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
40	赤毛套流浪民 *	1917 年 1 月 11 日	筆、墨・紙	(当館寄託)
41	老婆の肖像 *	1917 年 1 月 17 日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
42	田中志郎の肖像 *	1917 年 1 月 31 日	鉛筆・紙	(当館寄託)
43	手袋 *	1917 年 2 月 12 日	鉛筆・紙	(当館寄託)
44	ヤエコの肖像 *	1917 年 1 月 25 日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
45	生命門と滅門 *	1917 年 3 月 30 日	筆、墨・紙	
46	自画像 *	1918 年 1 月 22 日	コンテ・紙	(当館寄託)
47	自画像 *	1918 年 1 月 23 日	ペン、インク、コンテ・紙	(当館寄託)
48	自画像 *	1918 年 1 月 24 日	ペン、インク・紙	
49	自画像 *	1918 年 1 月 24 日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
50	自画像 *	1918 年 1 月 25 日	コンテ・紙	
51	自画像 *	1918 年 2 月 7 日	鉛筆・紙	(当館寄託)
52	噂話 *	1918 年 2 月 18 日	ペン、インク・紙	
53	自画像 *	1918 年 3 月 20 日	コンテ・紙	(当館寄託)
54	自画像 *	1918 年 4 月 2 日	コンテ・紙	(当館寄託)
55	男の横顔 *	1918 年頃	コンテ・紙	
56	女の顔 *	1918 年頃	コンテ・紙	
57	男の顔 *	1918 年頃	コンテ・紙	
58	女の顔 *	1918 年頃	コンテ・紙	
59	河村氏肖像 *	1918 年 11 月 17 日	コンテ・紙	
60	鎧を着た男 *	1919 年 1 月 12 日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
61	妻の肖像 *	1919 年 1 月 13 日	コンテ・紙	
62	《虞美人化粧之図》下図	1921 年頃	鉛筆、筆、墨・紙	(当館寄託)
63	ロミオとジュリエットーモンタギュー、キャピレット両家街上衝突の図	1921 年 12 月 6 日	筆、墨・紙	
64	ロミオとジュリエットー仮面舞踏会の図・ジュリエット、眠り薬を受く図	1921 年 12 月 11 日	筆、墨・紙	
III 聖書物語				
1	キリスト誕生礼拝の図	1916 年 8 月-9 月	油彩・キャンバス	(財)青春白樺美術館
2	Knock the door (少年と天使)	1918 年 3 月 13 日	油彩・紙ボード	
3	放蕩息子	1918 年 3 月 23 日	油彩・紙ボード	
4	ダビデとゴライアス	1918 年 6 月 5 日	油彩・紙ボード	
5	十字架上の基督	1918 年	油彩・キャンバス	
6	聖ヨハネ	1918 年頃	油彩・キャンバス	
7	ダフネ	1918 年頃	油彩・紙ボード	
8	テベリヤダ湖上の耶蘇	1919 年 4 月	油彩・キャンバス	
9	スザンナと長老達 *	1921 年	油彩・キャンバス	ヒノギャラリー
10	スザンナ *	不詳	油彩・紙ボード	ギャラリー京華
11	三連祭壇画 *	1925 年 11 月 30 日	油彩・板	

12	百姓達の礼拝 No.7 *	1917 年 7 月 6 日	水彩・紙	(当館寄託)
13	百姓達の礼拝 *	1917 年 7 月 24 日	水彩・紙	(当館寄託)
14	百姓達の礼拝 *	1917 年 7 月 28 日	ペン、インク・紙	
15	神聖なる墓 *	1918 年頃	ペン、インク・紙	
16	授洗ヨハネ *	1918 年頃	ペン、インク・紙	
17	聖書挿画 *	1918 年 2 月 19 日	ペン、インク・紙	
18	発芽と開花 *	1918 年 4 月 24 日	ペン、インク、水彩・紙	(当館寄託)
19	十字架を負うキリスト *	1919 年 7 月 7 日	ペン、インク・紙	(当館寄託)
20	日本武尊 *	1919 年 9 月 4 日	筆、墨、彩色・紙	(当館寄託)
21	聖書挿画 *	1920 年 3 月 27 日	ペン、青インク・紙	(当館寄託)
22	鞭打たれるキリスト *	1920 年 4 月 6 日	ペン、青インク・紙	(当館寄託)
23	聖書挿画 *	1920 年 4 月 17 日	ペン、青インク・紙	(当館寄託)
24	基督最初の弟子	1920 年 7 月 13 日	墨、彩色・紙	
25	マグダラのマリア肖像	1920 年 7 月 22 日	筆、墨、彩色・紙	
26	マグダラのマリア墓を訪ねて復活後の耶蘇に会う	1920 年 7 月 25 日	筆、墨・紙	
27	爾曹(なんじその)価なしに受けたれば亦価なしに施すべし	1920 年 8 月 3 日	筆、墨・紙	(当館寄託)
28	ラザロの蘇生 *	1920 年頃	筆、墨・紙	(当館寄託)
29	聖書挿画 *	1920 年頃	ペン、インク、水彩・紙	(当館寄託)
30	アブラハムと地獄に陥ちたる富者ラザル	1920 年 9 月 5 日	筆、墨・紙	
31	ゲフシマニヤの祈祷	1920 年 9 月 6 日	筆、墨・紙	
32	バプテズマのヨハネ殺さる図	1920 年 9 月	水彩・紙	
33	パラダイス *	1920 年頃	ペン、インク・紙	(当館寄託)
34	十字架を捧げる天使たち *	1920 年頃	ペン、インク・紙	(当館寄託)
35	サロメ *	1920 年頃	筆、墨・紙	(当館寄託)
IV 芝居と風俗				
1	アマゾン征伐	1923 年	油彩・キャンバス	
2	竹林之七妍	1923 年 4 月	油彩・板	東京都現代美術館
3	芝居図	1923 年	油彩・キャンバス	府中市美術館
4	横浜風景	1924 年 3 月	油彩・板	豊橋市美術博物館
5	横浜風景	1924 年	油彩・板	豊橋市美術博物館
6	三女神	1924 年	油彩・キャンバス	
7	ハムレット	1924 年 4 月 9 日	油彩・板	
8	芝居絵(船)	1924 年頃	油彩・板	
9	婦人像	1924 年 9 月 30 日	油彩・キャンバス	府中市美術館
10	新東京風俗図屏風	1925 年 1 月	泥絵具・紙 四曲一双	東京国立近代美術館
11	蒙古襲来之図	1926 年	油彩・キャンバス	
12	花の図	1926 年 6 月 17 日	油彩・キャンバス	東京都現代美術館
13	花の図	1926-27 年	油彩・キャンバス	足利市立美術館
14	外国少女	1927 年	油彩・キャンバス	
15	椅子の裸婦(裸体造形)	1928 年	油彩・キャンバス	
16	私も何か御役に立つそうです	1928 年 1 月 11 日	油彩・板	
17	女性像 *	1930 年頃	油彩・板	
18	帽子をかぶった女性像	1930 年頃	油彩・キャンバス	
19	三人車中	1932 年	油彩・紙ボード	
20	娘時代	1935-36 年	油彩・キャンバス	
21	ABC 教育	1936 年	油彩・キャンバス	
22	鹿鳴館婦人像	1940 年	油彩・板	豊橋市美術博物館
23	薔薇図	1942 年	油彩・キャンバス	
24	不義の料理人 *	1921 年	筆、墨、水彩・紙	(当館寄託)
25	活動写真標題文字理絵 *	1921 年	筆、墨、水彩・紙	(当館寄託)
26	泣くな我妻 *	1921 年 12 月 1 日	筆、墨、水彩・紙	(当館寄託)
27	あゝ、アの子は洋服が汚いので馬鹿にされて居る *	1922 年	筆、墨、水彩・紙	(当館寄託)
28	俺の画を「時代外しの画だとなぞ」皆が云う *	1922 年 12 月 17 日	筆、墨、水彩・紙	(当館寄託)
29	こんなに居てもこれはと思う奴ア一人も居ねい *	1922 年 12 月 17 日	筆、墨、水彩・紙	(当館寄託)
30	或るおとぎばなしの挿絵(『鉄の靴』挿絵)	1923 年 11 月 17 日	筆、墨・紙	(当館寄託)
31	豚と紳士 *	1928 年頃	ペン、インク・紙	(当館寄託)
32	東洋美術展前美術学校で *	昭和初期	筆、墨・紙	(当館寄託)
33	牛乳給配所 *	昭和初期	筆、墨・紙	(当館寄託)
34	廃娯運動乃代表者 *	昭和初期	筆、墨・紙	(当館寄託)
35	桃源郷に遊ぶ人々	1941-42 年頃	筆、墨、彩色・紙	(当館寄託)
V 銅版画 ※ Et:エッチング、En:エンブレイヴィング、後摺り:若月公平による				
1	裾花川の河柳	1914 年 7 月 4 日	Et/後摺り	
2	イヴの創造	1918 年 11 月 17 日	Et、ジンク版	
3	神聖なる墓	1918 年 12 月 12 日	Et、ジンク版	

4	アダムとイヴ	1923 年 6 月 24 日	Et	
5	スザンナ	1923 年 7 月 16 日	Et	
6	モーゼ一代記	1923 年	Et	
7	ロトの逃走	1923 年 10 月 18 日	Et	
8	布施大子の入山	1923 年 11 月 5 日	Et、En	
9	基督磔刑図	1923 年 11 月 18 日	Et	
10	モーゼ発見	1923 年 11 月 30 日	Et	
11	戯画 *	1923 年 12 月 9 日	Et	
12	秋色競艶	1923 年 10 月 23 日	Et	
13	麹町・武者小路実篤邸焼け跡之図	1923 年 9 月 12 日頃	Et／後摺り	
14	アゝ、神モ仏モ無キカ！	1923 年 9 月 14 日	Et	
15	母何処？	1923 年 9 月 14 日	Et	
16	被服廠	1923 年	Et	
17	此度震災所見図	1923 年 9 月 14 日	Et	
18	マアマア待った待った	1923 年 9 月 17 日	Et	
19	丸善跡	1923 年 9 月 20 日	Et	
20	上野精養軒臨時食堂	1923 年 9 月 20 日	Et	
21	御茶ノ水土堤大崩潰図	1923 年 9 月 23 日	Et	
22	御茶ノ水橋	1923 年 9 月 23 日	Et	(当館寄託)
23	糞ッ！今度は水だと来やがる	1923 年 9 月 25 日	Et	
24	惨状！目もあてられず！	1923 年 9 月 25 日	Et	
25	神田明神跡ヨリニコライ跡ヲ見ル	1923 年 9 月 28 日	Et	
26	食糧是如到来	1923 年 9 月 28 日	Et	
27	西洋料理(ライスカレー屋)	1923 年 10 月 3 日	Et	
28	鎌倉近在所見	1923 年 10 月 9 日	Et／後摺り	
VI 挿絵と装幀				
1	『布施太子之入山』	1921 年 11 月 5 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
2	『布施太子之入山』表紙下図	1921 年	水彩・紙	(当館寄託)
3	『布施太子之入山』挿絵下図	1921 年	筆、墨・紙	(当館寄託)
4	『項羽と劉邦』	1922 年 6 月 5 日改版発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
5	『項羽と劉邦』挿絵異稿 1 第一幕第一場	1921 年	筆、墨、水彩・紙	(当館寄託)
6	『項羽と劉邦』挿絵原画 第一幕第一場 「項羽虞姫の首を刀にてたたく」	1921 年	筆、墨・紙	豊橋市美術博物館
7	『項羽と劉邦』挿絵異稿 2 第一幕第一場	1921 年	筆、墨・紙	(当館寄託)
8	『項羽と劉邦』挿絵原画 第五幕第三場 「最後の舞の虞姫と腰元」	1921 年	筆、墨・紙	豊橋市美術博物館
9	『項羽と劉邦』挿絵原画 第五幕第三場	1921 年	水彩・紙	弥生美術館
10	『項羽と劉邦』挿絵異稿 3 第五幕第三場	1921 年	筆、墨・紙	(当館寄託)
11	『項羽と劉邦』挿絵原画 大詰「項羽を葬る劉邦」	1921 年	筆、墨・紙	豊橋市美術博物館
12	『鉄の靴』	1923 年発行	書籍	
13	『転身』	1923 年 5 月 5 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
14	『転身』表紙原画	1923 年	水彩、金泥・布	(当館寄託)
15	『黎明の鳥』第 1 年 9 月号表紙	1925 年発行		(当館寄託)
16	『ノアの船』	1925 年 12 月 15 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
17	『ノアの船』表紙原画	1925 年	水彩・紙	(当館寄託)
18	『ノアの船』扉原画	1925 年	筆、墨、彩色・紙	(当館寄託)
19	『ノアの船』口絵原画	1923 年 1 月 18 日	墨・紙	府中市美術館
20	『ノアの船』口絵原画(左)	1923 年 1 月 17 日	筆、墨・紙	(当館寄託)
21	『ノアの船』口絵原画(右)	1923 年 1 月 17 日	筆、墨・紙	(当館寄託)
22	『ノアの船』「夢」挿画異稿	1923 年 1 月 15 日	筆、墨・紙	(当館寄託)
23	『ノアの船』「帯星のお婆さんと仏陀」 挿絵原画	1923 年 1 月 13 日	筆、墨・紙	(当館寄託)
24	『ノアの船』「黒鬼の笑い」挿絵異稿	1923 年 1 月 15 日	筆、墨・紙	(当館寄託)
25	『七つの夢』	1926 年 7 月 16 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
26	『富士に立つ影』第六巻 帰来篇	1926 年 11 月 5 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
27	『ひよどり草紙』	1927 年 8 月 23 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
28	『ひよどり草紙』装幀原画(表・裏・箱背)	1927 年	墨、彩色・紙	弥生美術館
29	『ひよどり草紙』口絵原画	1927 年 8 月	墨、彩色・紙	弥生美術館
30	『貝殻一平』上巻	1929 年 12 月 24 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
31	『空中紳士』	1929 年 2 月 20 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
32	『幕末巷談』	1930 年 2 月 5 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
33	『幕末巷談』表紙原画	1930 年	木版、手彩色・紙	(当館寄託)
34	『接吻市場』	1930 年 11 月 20 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
35	『旋風時代』上巻	1930 年 5 月 25 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
36	『井原西鶴』	1939 年 10 月 30 日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
37	『井原西鶴』挿絵原画 第 1 回	1931 年	墨・紙	調布市武者小路実篤記念館

38	『井原西鶴』挿絵原画 第8回	1931年	墨・紙	調布市武者小路実篤記念館
39	『井原西鶴』挿絵原画 第10回	1931年	墨・紙	調布市武者小路実篤記念館
40	『井原西鶴』挿絵原画 第26回	1931年	墨・紙	調布市武者小路実篤記念館
41	『ふらんすお政』	1933年11月30日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
42	『歌境心境』	1943年1月20日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館
43	『神風連』上巻	1943年11月10日発行	書籍	渋谷区立松濤美術館

※＊印の作品は新発見作品で今回、図録編者が新しく作品名を付した。

※上記の他資料約90点(家茂の洋書・和書、日記、スケッチ帖、展覧会関連資料、河野次郎関連資料など)を展示した。

●関連事業

事業名	日時、場所、講師等	参加者数
学芸員によるギャラリートーク	2月24日(日) 15:15-15:55 / 3月15日(土) 14:00-14:40 美術館展示室 土方明司(当館館長代理)	計130人

●展覧会図録

大正の鬼才 河野通勢 新発見作品を中心に

発行年月	2008年 2月
価格	2,000 円
体裁	29.7cm×22.7cm 240頁
テキスト	瀬尾典昭「河野通勢—奇想と見神のすべて」 岩切信一郎「絵空事師・河野通勢—その挿絵と装幀」 木内真由美「河野通勢—長野の青春時代」 土方明司「河野通勢・画風の変化とその背景について」 江尻潔「ダイモーンの声」 各章扉解説 作品解説
図版	出品作品・資料図版:Ⅰ59点、Ⅱ64点、Ⅲ35点、Ⅳ35点、Ⅴ28点、Ⅵ46点、Ⅶ91点 参考図版:21点
資料等	河野次郎年譜 河野通勢年譜 河野通勢 大正五年のノートブック(抄録) 河野通勢日記(抄録) 裾花河ノタ 主要展覧会出品目録／主要文献目録／出品リスト
編集	土方明司(平塚市美術館)／江尻潔(足利市立美術館)／瀬尾典昭(渋谷区立松濤美術館)／ 木内真由美(長野県信濃美術館)
制作	美術出版デザインセンター
発行	美術館連絡協議会

●主な紹介記事・番組

月日	紹介内容
1月24日(木)	「大正期の鬼才 河野通勢展」 タウンニュース
1月24日(木)	「早熟にして天賦の才能 河野通勢展 平塚市美術館」 週刊芸術新聞
1月25日(金)	「大正の鬼才 河野通勢—新発見作品を中心に」 読売新聞
2月 2日(土)	「河野通勢展きょう開幕」 読売新聞
2月14日(木)	土方明司「大正期の鬼才(1) 細密描写に祈り貫く」 読売新聞
2月15日(金)	土方明司「大正期の鬼才(2) 描く前 柳に深々と一礼」 読売新聞
2月16日(土)	土方明司「大正期の鬼才(3) 論し受け 内面性色濃く」 読売新聞
2月17日(日)	「よみがえる大正期の鬼才 洋画家・河野通勢」 NHK 新日曜美術館
2月19日(火)	土方明司「大正期の鬼才(4) 虚心な視線 岐路見据える」 読売新聞
2月21日(木)	土方明司「大正期の鬼才(5) ほかの絵を自在に応用」 読売新聞
2月22日(金)	ジャンル別番組ガイド「新日曜美術館 よみがえる大正の鬼才 洋画家・河野通勢」 ステラ
2月27日(水)	田中三蔵「河野通勢展 新出作品でイメージ覆る」 朝日新聞
3月12日(水)	「文化往来 西洋と江戸の統合 画家・河野通勢を再評価」 日本経済新聞

9 新収蔵品展

会期：2008年3月28日(金)～5月25日(日)



斉藤典彦《Water Land-7》当館蔵

種別	特集展
主催	平塚市美術館
観覧料	一般 200 円、高大生 100 円 ※各減免を除く
日数	52 日間
入場者数	5,987 人
担当	江口恒明（当館学芸員）

●内容

平塚市美術館では開館以来「湘南の美術・光」をテーマに、近現代の洋画・日本画・彫刻を中心に収集をしてきました。2007 年度も素晴らしい作品の寄贈・寄託を受けることができました。本展では、それらの作品および今回が当館での初展示となる作品 29 点を紹介しました。

日本画では、堀文子(ほりふみこ・1918-)、佐藤晨(さとうしん・1935-)、内田あぐり(うちだあぐり・1949-)、斉藤典彦(さいとうのりひこ・1957-)など湘南の地で制作し、現在活躍中の作家の作品が中心となります。洋画では、古典的な技法を用いた静謐な作品で知られる有元利夫(ありもととしお・1946-85)の代表作を含む作品、また木彫の人物表現を追求し続ける舟越桂(ふなこしかつら・1951-)の彫刻も展示しました。

今年度の寄贈・寄託作品は、比較的新しい時代の洋画、日本画、彫刻作品が多数をしめています。それぞれのジャンルの伝統をふまえながら、新しい表現を模索する作家たちの作品を紹介しました。

●出品リスト

No	作家名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵先
1	有元 利夫	青い婦人	1974 年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
2	有元 利夫	追憶	1976 年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
3	有元 利夫	部屋の夕暮	1979 年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
4	有元 利夫	平均律	1980 年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
5	有元 利夫	空の窓	1980 年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
6	有元 利夫	夜のカーテン	1980 年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
7	有元 利夫	幕間の再会	1981 年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
8	有元 利夫	幕あけ	1983 年	油彩・キャンバス	(当館寄託)
9	飯室 哲也	水平・垂直	1996 年	木版・手彩色・紙	当館
10	稲 憲一郎	Oval	1996 年	木版・紙	当館
11	稲 憲一郎	Flow	2000 年	木版・紙	当館
12	猪熊 佳子	神話の国から	2005 年	彩色・紙	当館
13	牛島 憲之	水郷	1943-50 年代	油彩・キャンバス	当館
14	内田 あぐり	白い着物の裸婦	1982 年	彩色・紙	当館
15	内田 あぐり	吊された男#01K	2001 年	彩色・紙	当館
16	大河内 正夫	湯布院	1988 年	彩色・紙	(当館寄託)
17	北澤 明子	鷺汀より	1993 年	彩色・紙	当館
18	小山 敬三	晩秋飛瀑	1977 年	水彩・紙	当館
19	佐々木 豊	裸婦と骨	1985 年	油彩・キャンバス	当館
20	斉藤 典彦	MORI O OMOU-3	1991 年	彩色・紙、木	当館
21	斉藤 典彦	Water Land-7	1994 年	彩色・紙	当館
22	斉藤 典彦	かのみず	2001 年	彩色・絹	(当館寄託)
23	斉藤 典彦	in her garden	2006 年	彩色・紙	(当館寄託)
24	佐藤 晨	幻月	1998 年	彩色・紙	(当館寄託)
25	福井 江太郎	集	1996 年	彩色・紙	(当館寄託)
26	舟越 桂	羽の門	2000 年	木	(当館寄託)
27	保田井 智之	海に落ちる山 I	1999 年	木、ブロンズ	(当館寄託)
28	堀 文子	トスカーナの花野	1990 年	彩色・紙	(当館寄託)
29	堀川 紀夫	EDGE' 97-OCT-1	1997 年	アルミ版、腐食・紙	当館

Ⅲ 教育普及

(1) 教育プログラム

担当：端山聡子(当館学芸員)、六島芳朗(当館嘱託員)

No	プログラム名・概要・講師名・その他	開催日数と開催日	対象・参加数
1	屋外彫刻を探究する 共催：都市政策課、平塚をみがく会 ○平塚市内 80 点以上の屋外彫刻作品調査。	全 8 日間： 4/25(水), 5/5(土), 5/9(水), 5/23(水), 6/6(水), 6/27(水), 7/4(水), 7/18(水)	一般/延 80 人
2	〈ひと〉ワークショップクラブⅠ ○ボランティアリーダー育成のためのプログラム。一般向けワークショップや学校等から教育目的で依頼されたワークショップの企画、準備、実施までのプロセスに参画、実践しつつ学ぶ。	全 8 日間： 4/21(土), 5/18(日), 5/24(木) 5/27(日), 5/29(火), 6/5(火), 6/22(金), 6/29(金)	一般/延 30 人
3	湘南の美術を学ぶⅠ ○湘南地域で開催の展覧会等の調査・研究。	全 3 日間：金曜開催 5/4、6/8、7/13	一般/延 80 人
4	七夕の伝統飾りを再現する ○作品《江戸時代七夕飾り図》をもとに再現展示。	全 7 日間： 5/6(日), 5/10(木), 5/30(水), 6/7(木), 6/16(土), 6/21(木), 7/5(木)	一般/延 40 人
5	絵画から彫刻へ、彫刻から絵画へ ○東海大学美術芸術学科課程の新関八紘教授、滝波重人教授、吉村維元教授 ○館内に設置の彫刻作品をテーマに、粘土を使い実物大の彫刻を作成。	全 3 日間：日曜開催 5/13、5/27、6/10	一般/延 30 人
6	磁器への上絵付け ○井上美枝子氏(ポーセリンアーティスト) ○ヨーロッパの様々な磁器の模様について学び、皿とマグカップに磁器用絵具を用いて絵付けを行う。	全 3 日間：木曜開催 5/17、5/31、6/14	一般/延 33 人
7	湘南美術散歩 バスツアー ○訪問先：カサヤの森現代美術館、横須賀美術館	5/25(金)	一般/25 人
8	藍染めのバンダナ ○ワークショップクラブメンバー ○天然藍の染色体験。美術館前庭で発表。	6/2(土)	小学生/10 人
9	七夕にちなんだ伝統文化を体験する ○小林千草氏(東海大学文学部教授, 下山歌飛倭氏(琴奏者)他) ○6/24:講演会(N010 参照)、7/8:琴の演奏聴講、7/16:七夕飾り制作。	全 3 日間： 6/24(日)、7/8(日)、 7/16(月・祝)	一般/延 12 人
10	講演会：能く関寺小町>に探る中世の七夕 ○小林千草氏(東海大学文学部教授) ○能の中でも難しい演目<関寺小町>にとり上げられた中世の七夕についての講和。※七夕にちなんだ伝統文化を体験するの関連企画。	6/24(日)	一般/31 人
11	子ども七夕茶会 ○高橋静枝氏(茶担当), 御園井裕美子氏(菓子担当), ワorkshopクラブメンバー, 江南高校と大磯高校の茶道部員 10 名 ○伝統的な竹飾りをつくって飾り、七夕にちなんで製作した生菓子で七夕茶会を開催。高校生が部活動の一環として、研修会を経てワークショップの準備から実施まで参加、子どもたちと一緒に活動。	6/30(土)	小学生/13 人
12	作家による子ども日本画教室ー岩絵の具で描いてみよう ○斉藤典彦氏(東京藝術大学美術学部日本画研究室准教授) ○日本画材料の特徴についてのレクチャーと実物資料の紹介、講師作家の絵に対する考え方などの講義。団扇の両面に絵付け。	8/4(土)	小中生/19 人
13	みんなで光る「どろだんご」を作ろう!!! ○岩月真由子氏(土の芸術家) ○千石磨きの技(左官の技法)を用いて光る「どろだんご」を作成。	全 2 日間： 8/11(土)、8/12(日)	小学生/延 75 人

14	湘南の美術を学ぶⅡ ○湘南地域で開催の展覧会等の調査・研究。	全5日間:金曜開催 8/17, 9/21, 10/12, 11/16, 12/4※のみ火曜開催	一般/延 59 人
15	ヘタでも楽しく描くぞー！ ○平塚美術家協会会員 ○持参した夏野菜と果物をテーマにクレヨンや水彩絵具を使い制作。	8/23(木)	小学生/21 人
16	〈ひと〉ワークショップクラブⅡ ○子供向けワークショップ2種類の準備、実施を行った。	全8日間: 9/4(火), 9/19(水), 9/28(金), 10/5(金), 10/14(日), 11/22 (木), 12/6(木), 12/7(金)	一般/延 38 人
17	絵を描く画材を知る 日本画 ○上田邦介氏(画材研究家) ○日本画材料の種類とその変遷についてのレクチャー後、実際の水干 絵具の製作、麻紙ボードにバラの絵をぬりえの技法で描く。	9/22(土)	一般/20 人
18	屋外彫刻を探究する 共催：都市政策課、平塚をみがく会 ○平塚市内 80 点以上の屋外彫刻作品調査。高浜高校にある寺畑助之丞 の彫刻の保存処置。	全8日間:木曜開催 9/27, 10/11, 10/25, 11/1, 11/15, 11/29, 12/13, 12/20	一般/延 78 人
19	透かし葉を使って作る「秋のサンキューカード」 ○ワークショップクラブメンバー ○ヒイラギモクセイの透かし葉を作ってカードを作成。	10/6(土)	小学生/9 人 ※親子参加
20	絵を描く画材を知る 水彩画 ○鈴木淳氏(修復家・絵画材料学研究者) ○水彩画の材料を学ぶため、ローズマダー、ウルトラマリンブルー、 シルバーホワイトの水彩絵具を媒剤と練り合わせて作成。透明水彩と 不透明水彩の性質の違いも学び、紙に簡単に描く。	10/8(月・祝)	一般/26 人
21	藍染めのバンダナ ○ワークショップクラブメンバー ○天然藍の染色体験。美術館前庭で発表。	10/14(日)	小学生/ 7 人
22	羊の毛から作ったフェルトで変身！ ○永井悦子氏(染織アーティスト) ○羊毛を丸めたり洗って縮ませたりしてフェルトの作成を体験。完成 したフェルトで大きな耳や尾をつくって身につけ動物に変身。	10/21(日)	小学生/13 人
23	みんなで光るどろだんごを作ろう!!! ○岩月真由子氏(土の芸術家) ○千石磨きの技(左官の技法)を用いて光る「どろだんご」を作成。	10/27(土)	小学生/35 人
24	写真で表現ー懐かしい場所・記憶としての湘南の風景ー ○川廷昌弘氏(写真家) ○所蔵品展関連ワークショップ。大磯町を題材に撮影。最終日は作品 展示と発表会を行う。	全3回: 11/17(月)、11/25(火)、 12/9(火)	一般/延 47 人
25	透かし葉をつかってつくるきらきらクリスマスカード ○ワークショップクラブメンバー ○ヒイラギの透かし葉を使い葉脈を取出しクリスマスカードを作成。	12/8(土)	小学生/20 人
26	水彩絵具で描いてみよう ○平塚美術家協会会員 ○透明水彩による紙の白を活かして描く方法で野菜や果物をスケッチ して描き、発色の美しさを体験。	08 年 1/14(月・祝)	中高生/3 人
27	湘南の美術を学ぶⅢ ○湘南地域で開催の展覧会等の調査・研究。	全3回:金曜開催 08 年 1/18, 2/15, 3/21	一般/延 29 人
28	〈ひと〉ワークショップクラブⅢ ○ボランティアリーダー育成のためのプログラム。一般向けワークシ ョップや学校等から教育目的で依頼されたワークショップの企画、準 備、実施までのプロセスに参画。活動はグループ単位で月2回程度。	全8回: 1/23(水), 1/31(木), 2/5(火), 2/14(木), 2/20(水), 2/27(水) 3/12(水), 3/26(水)	一般/延 17 人
29	絵を描く画材を知る 水彩画 ○鈴木淳氏(修復家・絵画材料学研究者) ○10 月 8 日の講座が応募者多数だったため追加開催。	08 年 1/26(土)	一般/19 人
30	種や実でエコロジカル・動く・アート ○笹井弘氏(エコアート造形作家) ○松かさやつくばねの種を使って、自然の力や仕掛けで動くユーモラ	08 年 2/3(日)	小学生/13 人

	スな玩具を制作。松かさで「動くクモ」、つくばねで「シャトル回転機」。		
31	カラフルなフェルトでぺったんこ絵をつくろう ○永井悦子氏(染織アーティスト) ○フェルトでふわふわ温かくて平らな絵を描く。完成品は壁掛け、鍋敷き、座布団等に利用。	08年2/17(日)	小学生/17人
32	墨で描く絵のような文字のような ○成田真洞氏(現代書家) ○古代象形文字からインスピレーションを得て、古代人の造形感覚を墨を使って文字を描くように絵を描くように体験。	08年2/23(土)	小中生/13人
33	アルミ鋳造で立体どうぶつをつくる ○森哲弥氏(彫刻家) ○海の中の生き物をテーマに、アルミ金属をろつぽで熱して溶かし、鋳込んで立体物を作成。	08年3/2(日)	小学生/19人
34	陶土であそぼうー器からオブジェまでー ○伊集院真理子氏(陶芸家) ○陶土で土遊びをしてから造形を行いオブジェを焼き上げる。	全2回: 08年3/9(日)、3/20(木)	小学生/42人
35	風にゆらゆら透かし葉モビール ○様々な葉と枝を用いて風にゆらゆら揺れるモビールを作成。	08年3/27(木)	小学生/20人 ※家族同伴
36	藍・絞り染めのシルクスカーフ or マイバッグ ○ワークショップクラブメンバー ○天然藍とインド藍で、絞り染めの技法を用いて大人はスカーフ、子供はマイエコバッグを作成。	08年3/30(日)	小学生/23人 ※家族同伴
計			1,066人

(2) 団体むけ研修・体験プログラム

No	種別	開催日	団体名	参加者数
1	研修	4月5日(木)	湘南ステーションビル平塚ラスカ	10人
2	博物館実習	5月～2008年1月	各実習生10日 各大学	14人
3	体験学習	5月23日(水)	神奈川県立大清水高等学校	4人
4	研修	6月12日(火)	「城島ふれあいの里」運営協議会	32人
5	研修	7月4日(水)	JICA(国際協力機構)、海外博物館の学芸員	3人
6	体験学習	7月12日(木)	神奈川県立大磯高等学校	20人
7	研修	7月13日(金)	湘南ステーションビル平塚ラスカ	12人
8	体験学習	7月24日(火)	神奈川県立大原高校	4人
9	視察	7月27日(金)	伊勢原市小学校教育研究会	20人
10	研修	8月4日(土)・5日(日)・15日(水)	厚木市立相川中学校教員	1人
11	視察	8月22日(水)	小田原市小学校教育研究会	52人
12	研修	8月22日(水)	神奈川県立総合教育センター	5人
13	研修	8月22日(水)	NHK文化センター横浜支社 湘南散歩の会	19人
14	研修	8月25日(土)	NHK文化センター横浜支社 湘南散歩の会	25人
15	視察	8月26日(日)	開成町教育委員会生涯学習課町民センター講座受講者	27人
16	体験学習	9月23日(日)	神奈川県立神奈川総合高校	22人
17	研修	9月25日(火)	六教育事務所社会教育主事	11人
18	視察	10月17日(水)	御殿場市生涯学習センター	14人
19	視察	10月23日(火)	開成町円中自治会福祉部	37人
20	視察	11月7日(水)	横須賀市消防局	23人
21	視察	08年2月5日(火)	調布市武者小路実篤記念館	27人
計				382人

IV その他の事業

(1) 事業

●第30回 平塚市展

平塚市美術館が開館した1991年に平塚市展第14回展を、展示室と市民アートギャラリーを使用して開催、以降毎年、同施設を利用して開催している。

日時他	2007年6月10日(日)~6月24日(日) 9:30-17:00/13日間
主催	平塚市展委員会
協力	平塚書道協会・湘南美術工芸研究会・平塚美術家協会・平塚写真連盟・ 平塚市教育委員会平塚写真連盟・平塚市教育委員会
後援	平塚市・平塚市文化連盟・平塚商工会議所・湘南ケーブルネットワーク・FM湘南
場所	美術館展示室、市民アートギャラリー
入場料	無料
入場者数	6,806人

●湘南ひらつか キネマの星

立体アニメーションの第一人者、村田朋泰の最新作等を上映。キャノンからの無償提供によるプロジェクターにより、400インチの大画面を美術館壁面に投影した。

日時他	2007年9月21日(金)~9月24日(月) 18:30-19:30/4日間
主催	平塚市美術館
協賛	キャノンマーケティングジャパン(株)/(株)ベネッセコーポレーション
場所	美術館前庭
入場料	無料
入場者数	410人

●クリスマスコンサート イン ミュージアム

日時	2007年12月1日(土) 14:00-15:00
主催	平塚市美術館
出演者	田中詩乃氏、平塚混声合唱団
場所	美術館テーマホール
入場料	無料
入場者数	200人

●弦楽四重奏 早春のコンサート イン ミュージアム

日時	2008年2月24日(日) 14:00-15:00
主催	平塚市美術館
出演者	新日本フィルハーモニー交響楽団メンバー：堀内麻貴(ファーストヴァイオリン)、西本徳子(セカンドヴァイオリン)、小山千鶴(ビオラ)、矢野晶子(チェロ)
場所	美術館テーマホール
入場料	無料
入場者数	250人

(2) 定例会議

●平塚市美術館協議会

○委員(敬称略):8名

山梨俊夫(学識経験者)、滝波重人(学識経験者)、田代信子(学識経験者)、朝野哲夫(学校教育関係者)、
小宮節子(学校教育関係者)、吉田豊香(学校教育関係者)、渡辺渉(社会教育関係者)、村上実樹(社会教育関係者)

○開催日・議題

第1回/2007年8月23日(木) 委員委嘱、平成19年度事業計画について

第2回/2008年3月18日(火) 平成19年度事業報告、平成20年度事業計画について

●美術品選定評価委員会

○委員(敬称略):5名

酒井忠康(学識経験者・委員長)、荒屋鋪透(学識経験者・副委員長)、加藤弘子(学識経験者)、田中淳(学識経験者)、
水沢勉(学識経験者)

○開催日・議題

2007年12月19日(水) 寄贈・寄託作品の収蔵の是非と評価について

(3) 「平塚市美術館友の会」活動

2002年4月発足。会員は美術館主催事業または連携事業を通じて交流をもち、各自の知識と教養を深め、平塚市の文化芸術の向上に寄与することを目的に設立。

○会員数:289人

○会員特典:2004年4月より実施。特集展は団体料金を適用、企画展は100円を減免。企画展レクチャーの案内。

○友の会レクチャー:三沢厚彦展4月22日(日)/黒田清輝展7月29日(日)/宮沢賢治展10月13日(土)

(4) 展覧会入場料割引制度

●観覧料金について、20%割引を20名以上の団体に適用している。以下の方は無料。

①小中学生 ②市内在住の60才以上の方 ③平塚市民で身体障害者手帳、療育手帳等の交付者と付添者

●手続きにより無料となる対象者は次のとおり。

①神奈川県内の高校生およびこれに準ずる者、引率者が教育課程として観覧する場合。

※美術館に連絡し、当日までに美術館で手続きをしてください。

②平塚市内の公民館主催事業による観覧。

※美術館に文書でご依頼ください。

●インターネット割引券 割引券をプリントして持参で、企画展・特集展の割引適用。

V 施設利用者等の統計

(1) 展覧会

●月別

月	開館日数	企画展	特集展	合計
4月	26日	6,426人	5,126人	11,552人
5月	27日	14,793人	10,599人	25,392人
6月	26日	—	1,398人	1,398人
7月	26日	2,142人	2,398人	4,540人
8月	27日	9,068人	7,395人	16,463人
9月	27日	7,484人	5,110人	12,594人
10月	26日	12,791人	7,638人	20,429人
11月	26日	5,777人	6,100人	11,877人
12月	25日	—	2,330人	2,330人
1月	24日	—	3,633人	3,633人
2月	25日	—	4,581人	4,581人
3月	26日	—	4,050人	4,050人
計	311日	58,481人	60,358人	118,839人

●学校観覧

		企画展			特集展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小学校	市内	22校	1,185人	74人	31校	1,764人	105人
	市外	9校	463人	34人	22校	1,631人	92人
中学校	市内	11校	103人	34人	13校	94人	40人
	市外	5校	70人	10人	6校	64人	18人
高等学校		10校	117人	27人	13校	153人	34人
計		57校	1,938人	179人	85校	3,706人	289人

(2) 貸出施設

●市民アートギャラリー 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数	展覧会名
4月	24日	6団体	6,518人	ポーセレンペインティング展、陶悠会作品展、2007心派日本画大展、画材&ギャラリーOCTオクトアトリエ展、第35回すさ美会展、世界の山々
5月	29日	8団体	7,190人	県民書連役員選抜展、樟の会作品展、柳彩会絵画展、2007平塚写真連盟写真展、紙に描く展、陶房芳乃和作品展、百笑一鬼、木軸展
6月	28日	3団体	5,744人	平塚市展、大磯文化写真協会写真展、橘川松苑個展
7月	24日	6団体	4,311人	ガラスとシルク〜女性工芸家二人展、第9回楽窯会作品展、此君会展、第25回神奈川県筆友書道連盟公募展、水美日彩会、2007第43回JRP湘南支部写真展
8月	24日	5団体	4,677人	入木展、薫風展 第10回湘南工房陶芸教室作品展、平塚市教員美術展、平塚書道協会展、金田絵画サークル展
9月	19日	3団体	3,984人	公募第22回湘南市民美術展、アールヴィヴァン湘南・青い鳥アートスクール・小田原美術学院合同美術展、第63回平塚美術家協会展
10月	30日	6団体	7,937人	カナガワビエンナーレ国際児童画展巡回展、湘南窯友の会作陶展、陶芸サロン遊熙会作品展、親と子による写生会展示会、平塚市文化祭(前期)、平塚市文化祭(後期)、第2回わたしたちの絵画展
11月	24日	7団体	9,981人	幼少図工作品展、第9回透彩会展、ししゅうグループ展「それぞれの詩(うた)」V、夢工房ステンドグラス展、オリンパスズイコークラブ湘南支部第10回写真展、ろくろ研究会作品発表会、シャドウボックス作品展(ひまわり会)
12月	19日	4団体	3,053人	フォト四季写真展、第13回旭彩会水彩画展、第19回日本画なでしこ会展、波の子造形教室作品展

月	利用日数	団体数	入場者数	展覧会名
1 月	24 日	5 団体	5,329 人	入木会“ぐうちょきばあ展”、平塚市保育園児童絵画展、東海大学アート&デザイン展、探美会展、アート 21 第九回油彩画展
2 月	24 日	4 団体	6,357 人	第 17 回心創展、平成 19 年度平塚・大磯・二宮地区中学校美術展、なかよし作品展、夢キルト展Ⅳ、
3 月	24 日	6 団体	4,630 人	陶芸クラブ有雅陶、ひまわりの会展、陶悠会作品展、銀杏カルチャー教室絵画展、第 5 回湘南画游展、第 14 回湘南芸術家協会展
計	293 日	63 団体	69,711 人	

●ミュージアムホール 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4 月	4 日	4 団体	230 人
5 月	0 日	0 団体	0 人
6 月	7 日	7 団体	544 人
7 月	7 日	7 団体	465 人
8 月	1 日	1 団体	140 人
9 月	3 日	3 団体	210 人
10 月	0 日	0 団体	0 人
11 月	6 日	6 団体	450 人
12 月	11 日	11 団体	776 人
1 月	7 日	7 団体	437 人
2 月	4 日	4 団体	337 人
3 月	13 日	14 団体	995 人
計	63 日	64 団体	4,584 人

●アトリエ 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4 月	1 日	1 団体	5 人
5 月	3 日	3 団体	7 人
6 月	3 日	3 団体	7 人
7 月	2 日	2 団体	6 人
8 月	0 日	0 団体	0 人
9 月	4 日	4 団体	14 人
10 月	8 日	8 団体	63 人
11 月	10 日	7 団体	130 人
12 月	5 日	6 団体	68 人
1 月	1 日	1 団体	5 人
2 月	4 日	4 団体	45 人
3 月	4 日	4 団体	18 人
計	45 日	43 団体	368 人

VI 施設の管理

(1) 防災訓練・消防設備点検

●防災訓練

実施日時：5 月 23 日(水)／9:00～9:30

訓練内容：美術館 1 階の「市民アートギャラリー厨房」で火災発生、施設利用者 75 人が来館中と想定。避難誘導訓練、水消火器を使用した消火訓練および展示室からの避難経路の確認を行った。

●消防点検

点検日：第 1 回 6 月 4 日(月)／第 2 回 08 年 1 月 21 日(月)～2 月 18 日(月)

(2) 施設の貸出について

●ミュージアムホール

○講演会、演奏会、映写会、会議等の開催について利用可能（床面積は 262 ㎡、座席数最大 150 席程度）。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1 件とする。

申込手続

○美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付

○受付は利用日の 6 ヶ月前の日から利用開始 7 日前まで。受付時間は 9:30～17:00。

○ピアノ・マイク等、その他設備の有料貸出しあり。

利用日時

○美術館事業で使用していない開館日に限る。※利用可能日についてはお問合せください(管理担当 0463-35-2111)。

○利用は半日単位で連続 2 日間まで。利用時間は、午前が 9:30～12:30、午後が 13:00～16:50、全日利用が 9:30～16:50。

使用料

利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
午前 9:30～12:30	2,000 円	3,000 円
午後 13:00～16:50	3,000 円	4,500 円
全日 9:30～16:50	5,000 円	7,500 円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額となる。

●市民アートギャラリー

○絵画、彫刻、工芸、書、写真等の美術に関する展示希望者への貸出しが可能。希望者多数の場合は抽選。

○施設規模は、天井高が 3.5m、床面積(A 室)が 215 ㎡、床面積(B 室)が 149 ㎡、AB 全室利用が 365 ㎡、標準壁面長が A 室で 68m、B 室が 57m、AB 全室利用で 120m。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1 件とする。申込み手続きは、受付期間に以下の順序で行っている。

申込手続

○展覧会計画書(館所定の用紙)の提出→審査→抽選・調整→美術館施設利用申込書の提出→使用料の納入→美術館施設利用承認書の交付

受付期間

○10 月から 3 月の間に利用希望の場合：4 月 1 日～10 日

9:30～17:00 (5 月 1 日～は空室があった場合のみ、利用開始 7 日前まで)

○4 月から 9 月の間に利用希望の場合：10 月 1 日～10 日

9:30～17:00(11 月 1 日～は空室があった場合のみ、利用開始 7 日前まで)

利用期間と日時

○1 日単位で最大 1 週間(6 日間以内＝火曜日から日曜日)まで利用可能。時間は 9:30～17:00 まで。

美術館休館日(月曜定休)は利用不可。

使用料

利用場所	平塚市民・団体	平塚市外
全室	10,000 円	15,000 円
A 室	6,000 円	9,000 円
B 室	4,000 円	6,000 円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額となる。

●アトリエA室・B室

○絵画・彫刻・工芸等の制作希望者への貸出しが可能(床面積はA室 157 m²、B室 111 m²)。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1件する。

利用日時

○美術館事業で使用していない開館日に限る。※利用可能日についてはお問合せください(管理担当 0463-35-2111)。

○利用は半日単位で6日間まで 午前利用が9:30～12:30/午後利用が13:00～16:50/全日利用が9:30～16:50

○美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付

○受付は利用日2ヶ月前の日から利用開始7日前まで、受付時間は9:30～17:00。

●使用料

利用場所	利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
アトリエA	午前 9:30～12:30	1,000 円	1,500 円
	午後 13:00～16:50	1,500 円	2,250 円
	全日 9:30～16:50	2,500 円	3,750 円
アトリエB	午前 9:30～12:30	700 円	1,050 円
	午後 13:00～16:50	1,100 円	1,650 円
	全日 9:30～16:50	1,800 円	2,700 円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額となる。

VII 組織・運営

館長(1) 草薙奈津子 — 副館長(1) 鈴木正 — 管理担当長(1) 小澤和孝 — 管理担当(4)
 — 学芸担当長(1) 土方明司 — 学芸担当(6)

VIII 沿革

1971年(S46)

11月○フクスケ画廊2周年記念パーティに集った作家たちより「平塚市へ美術館建設の要望をすること」の申請なされる。加藤一太郎市長、平野博収入役より「一作家一点寄贈運動」の提案。

1977年(S52)

3月○新設された平塚市博物館で「平塚市所蔵美術展」の開催、あわせて『平塚市所蔵美術品目録』の発行。
9月○企画展「鳥海青児と昭和の画家たち展 神奈川芸術祭」(神奈川県立近代美術館共催)、会場は平塚市博物館。

1982年(S57)

5月○社会教育委員会議議長名で「平塚市美術館建設について」の建議が教育長宛になされる。

1984年(S59)

4月○石川京一市長が美術館建設を公約として、市長選2期目に再選される。
5月○「美術館建設研究委員会」発足(庁内組織 委員長:山本桂一郎 教育委員会指導部)。
9月○平塚美術協会が「平塚市美術館早期促進建設の為の陳情書」を市に提出。

1985年(S60)

7月○「平塚市美術館基本構想策定委員会」設置(～1986年まで全8回開催)。
※構成委員は次の通り。落合良延、陰里鉄郎、匠秀夫、田中穰、原田実、平野博、升水滋、水島英耀、湯井勝(敬称略)。

1986年(S61)

3月○「平塚市美術館基本構想策定」答申。湘南の中心に位置する美術館としてメインテーマを「湘南の美術・光」とする。
4月○「美術館建設基本計画策定連絡協議会」の設置(庁内組織)。
○「第1回平塚市美術品選定評価委員会」の開催(於 平塚市博物館)。
9月○「平塚市美術館新築設計技術提案審査会」発足。プロポーザル予備審査会、本審査会を開催し、9社からの提案を審査。

1988年(S63)

1月○大蔵省との美術館建設用地払い下げ契約完了。(㈱日建設計と委託契約)。
4月○「平塚市教育委員会指導部美術館建設準備室」として博物館から独立、設置。

1989年(H元)

3月○「仮称平塚市美術館建新築工事(本体工事費)」の議決なされる。
7月○14日「平塚市美術館建設」起工。仮称平塚市美術館新築工事安全祈願祭に石川市長ほか関係者約70名が出席。

1990年(H2)

10月○「平塚市美術館本体工事」竣工。
12月○「平塚市美術館条例」公布。

1991年(H3) ■平塚市美術館開館

3月○美術館のシンボル彫刻《コンストラクション#115》ホセ・デ・リヴェラ作の搬入設置。
3月○25日：平塚市美術館開館(初代館長に原田実氏が就任)、記念式典の開催。26日より一般公開開始。
開館記念展「スイス プチパレ美術館名品展—タルコフとエコール・ド・パリの画家たち—」～5月5日まで。
5月○18日：開館記念展「湘南の萬鉄五郎」～6月16日まで。
7月○「平塚市展」はこの第14回展以降毎年、平塚市美術館展示室と市民アートギャラリーで開催。

1992年(H4)

3月 ○「市制60周年記念 相模の禅僧 風外慧薫作品展 平塚市博物館所蔵・高瀬コレクション」：3月20日～4月19日。
7月 ○第15回平塚市展から「美術館賞」の設定、審査は館長が行う。
11月○「市制60周年記念 田中真洲回顧展」開催：11月14日～12月13日

1993年(H5)

7月○博物館実習生の受け入れを開始。

1993年(H6)

3月○教育普及活動関連冊子ワークショップ「読むワークショップ」の刊行開始(年2冊～1999年)。

1995年(H7)

4月○教育普及活動において、市民参加型長期プログラム「ワークショップクラブ」発足。

1996年(H8)

11月○開館5周年記念展「ミレーとバルビゾン派の画家たち」開催：11月9日～12月22日。

10月○美術館内における総合的な地震対策の開始：彫刻転倒防止措置、スポットライト落下防止措置等。

1997年(H9)

4月○2代目館長に福田徳樹氏(フクダヨシキ)就任。

1999年(H11)

5月○常設展示を発展させた、所蔵品による「特集展示」の企画開始。

2000年(H12)

7月○「第50回湘南ひらつか七夕まつり歴史回顧展」開催：後援に冷泉家時雨亭文庫

10月○平塚市神奈川大学交流提携10周年記念「開港期の神奈川・世界が見た日本」展開催。

2001年(H13)

7月○開館10周年記念展「湘南の美術・光—美術館建設運動から開館10周年まで」開催：7月26日～9月30日

2002年(H14)

2月○開館10周年記念展「日本画の巨匠 安田靉彦—歴史画の魅力」開催：2月9日～3月24日

4月○「平塚市美術館友の会」発足。

11月○市制70周年記念「原精一 人間表現の魅力」展開催：11月2日～12月23日

2003年(H15)

2月○「神奈川大学図書館所蔵 パリ・コミュニケーションの風刺画 —1871年ペンと大砲の市民革命」展開催：2月2日～3月30日
※平塚市・神奈川大学交流事業 地域コレクションシリーズⅢ

2004年(H16)

4月○3代目館長に、草薙奈津子氏(クサギナツコ)就任。

2006年(H18)

1月○展示室可動壁のクロス張替え作業(1月～3月休室)。

9月○皇后美智子さまがご来館

20日午後、「世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展」をご鑑賞されました。

2007年(H19)

平塚市美術館概

■名 称 平塚市美術館 THE HIRATSUKA MUSEUM OF ART

■所在地 〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡 1-3-3

■電話等 TEL:0463-35-2111/FAX:0463-35-2741

E-mail: art-muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp

■開館時間 9:30~17:00 (入場は16:30まで)

※夏季の開館時間延長等あり。お問い合わせ下さい。

■休館日 月曜日(祝日は開館で翌火曜日休館)／年末年始／展示替期間(不定期)

■観覧料 特集展：一般 200 円／高大生 100 円／小中生無料／企画展はその都度、料金設定(インターネット割引券制度あり)。

●観覧料金について、20%割引を 20 名以上の団体に適用している。以下の方は無料。

①小中学生 ②市内在住の 60 才以上の方 ③平塚市民で身体障害者手帳、療育手帳等の交付者と付添者

●手続きにより無料となる対象者は次のとおり。

①神奈川県内の高校生およびこれに準ずる者、引率者が教育課程として観覧する場合。

※美術館に連絡し、当日までに美術館で手続きをしてください。

②平塚市内の公民館主催事業による観覧。

※美術館に文書でご依頼ください。

■交 通

電車で： JR 東京駅から東海道本線で約 1 時間。JR 平塚駅より徒歩 20 分。

バスで： ①JR 東海道本線 平塚駅東改札口(北口)より神奈川中央交通バス 10 番線乗り場からバス停「美術館入口」下車徒歩 1 分。

②小田急小田原線 本厚木駅南口から——神奈川中央交通バス・平塚駅行き、「日産車体前」で下車、徒歩 3 分。

③小田急小田原線 秦野駅南口から——神奈川中央交通バス・平塚駅行き、「横浜ゴム前」あるいは「市役所前」で下車、徒歩 5 分。

④小田急小田原線 伊勢原駅南口から——神奈川中央交通バス・平塚駅行き、「横浜ゴム前」あるいは「市役所前」で下車、徒歩 5 分。

自動車で：①東名高速・厚木方面から——国道 129 号線、大野右折後すぐ左折し平塚駅方面へ、県合同庁舎前を右折。

②茅ヶ崎方面から——国道 1 号線、馬入橋をわたり宮の前を右折、県合同庁舎前を左折。国道 134 号線からは新湘南大橋をわたり高浜台右折、東海道線のガードをくぐり榎木町左折、国道 1 号線、宮の前右折、県合同庁舎前左折。

③小田原方面から——国道 1 号線、崇善小学校東左折、平塚警察署入口右折。国道 134 号線からは八間通り入口左折、県道 61 号線、検察庁前右折、国道 1 号線、崇善小学校東左折、平塚警察署入口右折。

④秦野方面から——県道 62 号線(平塚秦野線)、東雲橋左折、平塚郵便局前左折、平塚警察署入口右折。

⑤伊勢原方面から——県道 61 号(平塚伊勢原線)、追分左折、平塚郵便局前左折、平塚警察署入口右折。または県道 606 号(大島明石)線、平塚警察署入口左折。

■施 設

①レストラン「ラ・パレット」／tel(fax) 0463-34-5624／営業時間 10:00-20:00

〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡 1-3-3 平塚市美術館内 定休日：月曜(月が休祭日では営業、翌日振替え定休。年末年始。)

②備 品：車椅子 2 台／ベビーカー 1 台／車椅子用トイレ設備

③駐車場：有(約 70 台・無料)

④貸出施設：市民アートギャラリー、アトリエ、ミュージアムホール

■建築概要

規 模 ○敷地面積 12677.57 m²／延床面積 7181.39 m²／建物高 15.8m

①展示部門 2009 m² ②収蔵部門 1163 m² ③研究部門 373 m² ④教育普及部門 704 m²

⑤サービス部門 1014 m² ⑥管理部門 542 m² ⑦共通部門 1376 m²

構 造 鉄筋コンクリート

平成 19 年度 平塚市美術館年報

発行年月日：2009 年 1 月

編集・発行：平塚市美術館

〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡 1-3-3

電話 0463-35-2111

<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/>